

目 次

【1年前期・通年】		【1年後期】	
保育原理	162～165	教育原理	217～219
子ども家庭福祉	166～168	社会福祉	220～223
保育者論	169～172	子ども家庭支援の心理学	224～226
子どもの心理学	173～175	子ども理解の方法	227～229
子どもの保健	176～178	子どもの食と栄養Ⅱ	230～232
子どもの食と栄養Ⅰ	179～181	保育・教育課程論	233～237
子どもと人間関係	182～186	保育内容総論	238～241
子どもと言葉	187～190	保育内容（造形表現）	242～244
子どもと表現	191～193	子どもと健康	245～247
保育実習指導Ⅰ（保育所）	194～197	乳児保育Ⅱ	248～250
＜通年＞		子どもの健康と安全	251～253
保育実習指導Ⅰ（施設）	198～201	保育実習Ⅰ（保育所）	254～255
＜通年＞		幼児体育指導法	256～258
保育・教育基礎研究Ⅰ	202～205	保育・教育基礎研究Ⅱ	259～262
音楽表現Ⅰ	206～209	音楽表現Ⅲ	263～265
音楽表現Ⅱ	210～212	教育実習Ⅰ	266～267
教育実習指導　＜通年＞	213～216	レクリエーション理論	268～270
		レクリエーション実習	271～272
		＜通年＞	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育原理	飯塚 恭一郎	1	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1201	
	担当教員	飯塚 恭一郎 (実務家)				
【キーワード】	【概要】					
1 子ども観	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『認可園教育・保育要領』に示されている日本における保育の意義や原理，原則を学ぶ。 保育は「子ども理解」「遊び」「環境」といった要因が有機的に構成されて成り立っていることを理解する。 保育と教育の歴史や思想から，未来に繋いでいくべき子ども観や保育観，教育観を学ぶ。 					
2 子ども理解						
3 遊び						
4 環境構成						
5 保育の歴史						
【授業のテーマ及び到達目標】						
1. 各要領，指針に示してある保育の意義や原理，子ども観，保育観が説明できる。 2. 保育において「子ども理解」「遊び」「環境」といった要因がどのように有機的に構成されているのか理解できる。 3. 保育と教育の歴史や思想について，その概要と特徴を説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し，選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを，保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って，協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計		
評価割合 (%)	35%	40%	25%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題や演習については授業内で説明，講評をする。試験については模範解答を提示する。						
【教科書】						
『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						
【参考書・参考資料等】						
講義の中でプリント参考資料を随時配布する。						
【関連科目】						
「保育者論」「保育内容総論」「教育原理」						
【受講心得】						
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。						

【備考】 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス		<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。併せて、教科書として指定している幼稚園・保育施設2要領1指針の概要を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスと教科書テキスト3冊に目を通しておく。 (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。(1時間)</p>
2 『幼稚園教育要領』の位置づけと役割		<p>【学習内容】 『幼稚園教育要領』と『保育所保育指針』の位置づけと役割、内容の概要について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』と『保育所保育指針解説』について、目次を中心に内容の構成を概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と『保育所保育指針解説』について共通している内容と差異がある内容について再確認する。(1時間)</p>
3 『保育所保育指針』と『認可園教育・保育要領』の位置づけと役割		<p>【学習内容】 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』の位置づけと役割、内容の概要について学ぶ。併せて、幼保一元・幼保一体化の考え方について知る。</p> <p>【事前学習】 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』について、目次を中心に内容の構成を概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』と『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』について共通している内容と差異がある内容について再確認する。(1時間)</p>
4 子ども観と子ども理解		<p>【学習内容】 教科書テキスト3冊に共通する「子ども観」や「発達感」、子ども理解の重要性について、それぞれの基準に示してある内容を理解する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園・保育施設2要領1指針の記述内容に関して「子ども観」や「発達感」、子ども理解などがキーワードとなっている箇所を確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「子ども観」や「発達感」、子ども理解の重要性をなどについて、教科書テキスト3冊や配付資料を読み返し理解を深める。(1時間)</p>
5 遊びと学びⅠ ーなぜ教科学習ではないのか？ー		<p>【学習内容】 総合的な活動としての「遊び」とそれによって得られる「学び」「育ち」について、小学校以降の「教科学習」との比較から、「遊び」を中心に据える保育の原理について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 教科書テキスト3冊の「総説」「総則」を中心に「遊び」の考え方について説明のある部分を概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 乳幼児期の保育において、なぜ「遊び」が主軸となるのか、教科書テキスト3冊および配付資料をもとに理解を深める。(1時間)</p>

6	遊びと学びⅡ －遊び=学び?－	<p>【学習内容】 「遊び」が学習方法であり「学び」に繋がることを理解し、保育内容と領域の基本的な意味を知る。</p> <p>【事前学習】 前回授業の内容をベースに、教科書テキスト3冊の「保育内容」の記述についても目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「遊び」と「学び」の関係を、教科書テキスト3冊および配付資料をもとに理解を深める。(1時間)</p>
7	遊びと学びⅢ －遊びの構造－	<p>【学習内容】 保育において「遊び」が成立する構造があることを知ると同時に、環境構成が遊びの成立に深く関わっていることを知る。</p> <p>【事前学習】 教科書テキスト3冊の「総説」「総則」を中心に「遊び」と「環境構成」の考え方について説明のある部分を概観しておく。</p> <p>【事後学習】 教科書テキスト3冊と配布資料を読み返し、遊びが成立する構造について理解を深める。(1時間)</p>
8	子どもの育ちと環境Ⅰ	<p>【学習内容】 環境構成によって遊びが生まれ、遊びによって子どもが学びを得ていく保育の原理を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 前回授業で扱った教科書テキスト3冊の該当部分と配付資料に再度目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 環境構成が遊びを生み出す構造的なイメージを教科書テキスト3冊および配布資料を読み返し理解を深める。(1時間)</p>
9	我が国の保育の現状	<p>【学習内容】 現在の日本の保育業界の現状等について、監督官庁からの開示資料やweb資料からその動向と背景について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「子ども・子育て支援新システム」等、保育の現状に関するいくつかのキーワードをもとに下調べをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布された資料の内容や情報について、再度ネット等でも確認し、保育にまつわる現状に関する理解を深める。(1時間)</p>
10	保育の歴史から学ぶⅠ －代表的な教育・保育思想家－	<p>【学習内容】 保育・幼児教育の歴史における代表的な教育家や研究者の簡単な経歴を知る。そして、その子ども観や教育観について詳しく調べる関心と意欲を持つ。</p> <p>【事前学習】 保育・幼児教育に係る代表的な教育家や研究者を参考図書やネット等を使って下調べをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループワークのメンバーと情報交換を行い、調べ学習の調べ方や発表に至る役割分担等について、アイデアを出し合っておく。(1時間)</p>
11	保育の歴史から学ぶⅡ －グループによる保育思想調べ①－	<p>【学習内容】 グループごとにテーマに選んだ教育家や研究者のプロフィール詳細、教育観、特徴的な教育手法などを、メンバーと協同し、調べる。</p> <p>【事前学習】 テーマに選んだ教育家の情報を参考図書やネット等を使って下調べをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループワークのメンバーと情報交換を行い、調べ学習の調べた内容を整理し、説明文や絵図に表すプランを練っておく。(1時間)</p>

1 2	保育の歴史から学ぶⅢ ーグループによる保育思想調べ②ー		<p>【学習内容】 テーマに選んだ教育家や研究者について調べた内容をもとに、ポスター絵図にまとめる作業をメンバーと協同して進めていく。</p> <p>【事前学習】 ポスター絵図作成について自分の考えたアイデアや工夫をメンバーに説明できる準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 時間内に終わらなかったポスター作成について、次回の発表までに担当作業に取り組んでおく。(1時間)</p>
1 3	保育の歴史から学ぶⅣ ーグループによる保育思想調べ③ー		<p>【学習内容】 テーマに選んだ教育家や研究者について調べた内容をもとに、ポスター絵図を仕上げ、発表の準備をする。</p> <p>【事前学習】 自分が担当したポスター絵図の仕上げ作業のチェックをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 発表会の役割分担を確認し、自分の担当内容について準備を進めておく。(1時間)</p>
1 4	保育の歴史から学ぶⅤ ーグループ発表ー		<p>【学習内容】 グループ毎に、テーマに選んだ教育家や研究者について調べた内容のポスター発表を実施し、保育・幼児教育の歴史と保育観・教育観について学び合う。</p> <p>【事前学習】 発表に向けてシミュレーションをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自分のグループの発表内容と、他グループの発表内容を比較したり、共通点を見いだしたりして、不易流行なる保育の営みの理解を深める。(1時間)</p>
1 5	授業の振り返りとまとめ		<p>【学習内容】 授業内容を振り返り、「遊び」を主軸にした保育の原理・原則の理解を深め、保育の仕事に関わる専門性について今後学ぶべきことの見通しを持つ。</p> <p>【事前学習】 授業内で配布されたプリント資料や教科書テキスト3冊の学習ポイントを再読しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 この授業の学習内容が、他の授業やこれから履修する保育・教育専門科目の学習内容とどのように繋がっていくのか、自分なりの見通しとイメージを掴んでいくようにする。(1時間)</p>
1 6	定期試験		

【実務家教員】

フリガナ	イヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】 「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、 「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子ども家庭福祉	高口 知浩	1	前期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1203	
	担当教員	高口 知浩				
【キーワード】	【概要】					
1 子どもの権利	子ども家庭福祉の基盤となる歴史、制度、施策、社会的対応などを学びます。子どもの権利や子どもへの虐待を中心に、身近なところから子どもを取り巻くさまざまな課題について考えていきます。					
2 虐待						
3 児童福祉						
4 子ども						
5 家庭						
【到達目標】	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解できる。 2. 子ども家庭福祉の制度や、その現状と課題について理解できる。 3. 子どもの権利擁護について自分の考えを整理し、保育者として何ができるのかを考えることができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題および提出物	受講態度	合計		
評価割合 (%)	60%	20%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	授業内でフィードバックを行う。定期試験に関しては、模範解答とコメントを学生に提示する。					
【教科書】	『MINERVAはじめての子ども家庭福祉①子どもと家庭福祉』／伊藤嘉代子・渋谷昌史 ミネルヴァ書房					
【参考書・参考資料等】	適宜紹介します。					
【関連科目】	「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「社会的養護Ⅱ」					
【受講心得】	全員が安心して講義を受けられるよう、それぞれが意識して受講すること					

【備考】		
卒業必修・保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 子ども家庭福祉とは		<p><学習内容>授業の概要他、授業に関するオリエンテーションを行う。子ども家庭福祉とはなにか、この授業ではどのようなことを学ぶのか、子どもとは？ということを考える。</p> <p><事前学習>シラバス（講義要項）に目をとおしておく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
2 子ども家庭福祉を取り巻く状況		<p><学習内容>子ども家庭福祉を取り巻く状況について考える。少子化や子どもを取り巻く福祉の問題などに焦点を当てて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
3 子ども家庭福祉の歴史		<p><学習内容>子ども家庭福祉の歴史について、世界の歴史と日本の歴史を合わせて学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
4 子ども家庭福祉の制度と法律		<p><学習内容>児童福祉法や子どもに関わる法律を中心に、子ども家庭福祉の制度と法律について学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
5 子ども家庭福祉にかかわる機関と施設		<p><学習内容>子ども家庭福祉にかかわる機関と施設について学ぶ。児童福祉施設の種別と役割やどのような専門職が働いているのか、児童相談所の援助についてなどを中心に学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
6 子育て支援 母子保健		<p><学習内容>少子化と子育て支援について、また、母子保健サービスについて学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
7 多様な保育ニーズへの対応		<p><学習内容>子ども家庭福祉にかかわる多様な保育ニーズと保育サービスについて学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
8 社会的養護		<p><学習内容>子どもにかかわるさまざまな問題の中で、社会的養護に焦点を当てて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>
9 障害のある子どもへの対応		<p><学習内容>障害のある子どもへの対応、福祉について学ぶ。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。（0.5時間）</p>

10	少年非行 外国籍の子どもとその家庭		<p><学習内容>少年非行の現状とどのような支援が行われているのか、外国籍の子どもとその家庭の現状や課題について考える。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
11	子どもの貧困		<p><学習内容>子どもの貧困の現状や子どもに与える影響などを考える。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
12	子どもの権利と虐待① ～虐待の定義と現状の把握～		<p><学習内容>虐待の定義について学び、視覚教材を見て虐待の現状について理解する。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
13	子どもの権利と虐待② ～虐待が起こる背景～		<p><学習内容>虐待が起こる背景についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
14	子どもの権利と虐待③ ～虐待から保護する仕組み～		<p><学習内容>虐待から子どもを保護する仕組みを学ぶ。子どもの権利についてディスカッションやグループワークを通じて考えていく。</p> <p><事前学習>教科書を読んでおく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
15	これからの子ども家庭福祉 まとめ		<p><学習内容>この授業をとおして学んだことのまとめとこれからの子ども家庭福祉について考える。</p> <p><事前学習>今までの授業のプリントなど振り返っておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業で学んだこと、気づきなどを周りの人と話してみる。(0.5時間)</p>
16	試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育者論	高口 知浩	1	前期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1205	
	担当教員	高口 知浩				
【キーワード】	【概要】					
1 保育者	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園, 保育所, 認定子ども園など保育者の職場について, 関係法令や資料をもとに役割や特徴などの理解を深める。 保育者の仕事の内容や社会的な位置付け, 処遇等について具体的な事例を基に学ぶ。 討議を通じて目指すべき保育者像を明らかにし, 説明する。 					
2 幼稚園						
3 保育所						
4 認定子ども園						
5 子育て支援						
【到達目標】						
1. 保育者の役割と仕事の内容および社会的な位置づけについて説明できる。 2. 保育者の職場（幼稚園・保育所・認定子ども園など）について説明ができる。 3. 自らが目指す保育者像を説明することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し, 選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを, 保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って, 協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・グループワーク	受講態度	合計		
評価割合 (%)	50%	30%	20%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題については授業内で正解回答を説明する。試験については模範解答を提示する。						
【教科書】						
『保育者論 - 主体性のある保育者を目指して - 』野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林						
【参考書・参考資料等】						
『子ども・子育て支援新制度 なるほどBOOK』 内閣府						
【関連科目】						
「教育原理」 「保育原理」						
【受講心得】						
不明な点があれば質問をするなどして講義内で解決できるよう, 積極的に取り組んでください。						

【備考】		
卒業必修 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス	<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）</p>
2	保育者の職場① －幼稚園(1)－	<p>【学習内容】 幼稚園について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。</p> <p>【事前学習】 幼稚園を含め日本の保育施設にはどのような施設があるか下調べをする。（1時間）</p> <p>【事後学習】 幼稚園に関する解説や情報を収集する。（1時間）</p>
3	保育者の職場② －幼稚園(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で使用した幼稚園に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、幼稚園について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、幼稚園についての理解を深める。（1時間）</p>
4	保育者の職場③ －保育所(1)－	<p>【学習内容】 保育所について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。</p> <p>【事前学習】 保育所を含め子育て支援を担う施設や事業が現在どのくらい展開されているか下調べをする。（1時間）</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの設問以外にも保育所に関する解説や情報を収集する。（1時間）</p>
5	保育者の職場④ －保育所(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で使用した保育所に関する調べ学習シートを元に各設問項目の詳細解説を聞き、保育所について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 調べ学習シートの記述内容を見直し、新たに入手した情報等があれば追加で記述しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、保育所についての理解を深める。（1時間）</p>
6	保育者の職場⑤ －認定こども園など－	<p>【学習内容】 認定こども園を中心に子育て支援に関わる保育施設について、その種類と機能、役割、法的位置づけ等を、専用シートを使って個々に調べ学習を行う。また、その解説を聞き子育て支援に関わる保育施設について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 子ども子育て支援新制度の資料を入手して認定こども園を含め子育て支援に関わる施設とサービスの概要について概観しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートの内容と詳細解説のメモや追加記入事項を合わせ再度シートを熟読し、子育て支援に関わる施設についての理解を深める。（1時間）</p>

7	保育者の位置づけ① ー免許資格・免許更新・研修制度ー	<p>【学習内容】 保育者に必要な免許、資格、免許更新制度、研修制度など保育者の社会的地位を裏付ける制度等について調べ学習を通して学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめどのような免許や資格があるか下調べしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 調べ学習シートを含め授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、保育者必携の免許・資格について理解を深める。(1時間)</p>
8	保育者の位置づけ② ー保育者を取り巻く現状ー	<p>【学習内容】 保育者を取り巻く現状と課題(保育者不足、キャリア形成、勤務状況、賃金等)についての説明を聞き、意見を出し合う。</p> <p>【事前学習】 昨今の保育者の処遇に関わる報道や制度の制定についてネット情報等も活用し下調べをする。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配付された資料を整理、保存をして内容を熟読し、理解を深める。(1時間)</p>
9	保育制度 ー子ども・子育て支援新制度を中心にー	<p>【学習内容】 「子ども・子育て新制度」について調べその仕組みと内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第6回の授業内容の配付資料を読み返し、ここまで学んでいる「新制度」について概観しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 『子ども・子育て支援新制度なるほどBOOK』の抜粋資料を整理する。そして授業内容のメモ・記録と併せて熟読し制度の理解を深める。(1時間)</p>
10	保育者の心得① ー職員集団ー	<p>【学習内容】 保育の仕事における保育者間の連携と協力、協同性、チームティーチングの重要性と実際について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 授業内で紹介した資料や文献をあたり、保育者の連携の実際を概観しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、資料や文献とも併せて保育者間の連携、協同の重要性と教育的効果について理解を深める。(1時間)</p>
11	保育者の心得② ー家庭との連携ー	<p>【学習内容】 保育者の仕事における保護者や家庭との連携の重要性を学び、連絡帳等の具体的なツールや技術が必要であることを知る。</p> <p>【事前学習】 自分自身が保育施設に通っているときの施設と保護者との連携がどのように行われていたか聞き取るなどして実際の事例を調べておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料を整理し、その他にもどのような連携の在り方があるか、ネットを活用して調べる等して、連携の実際について理解を深める。(1時間)</p>
12	保育者の心得③ ー地域との連携ー	<p>【学習内容】 保育施設が地域にとって保育と子育ての中心的役割を担っていることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 自分自身の幼児期の経験を振り返るなどして、保育施設と地域との連携事例をイメージしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配付されたプリント資料等をもとに、保育施設としての地域連携の在り方と保育者一人一人の仕事としての地域連携の方法を整理ながら理解を深める。(1時間)</p>

1 3	目指す理想の保育者像① ーグループディスカッションー	<p>【学習内容】 グループディスカッションを通して、「目指す理想の保育者の姿」を明らかにしていく。</p> <p>【事前学習】 自分がなりたい保育者のイメージと必要となる資質や人柄などを考察し整理しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 ポスター発表に向けて、「理想の保育者像」のイラスト表現と説明文章のアイデアを練っておく。(1時間)</p>
1 4	目指す理想の保育者像② ーポスター発表準備ー	<p>【学習内容】 前回授業のグループディスカッションで明らかにした「理想の保育者像」を、グループメンバーと協同でイラストと仮説明文を使って発表ポスターに表現する。</p> <p>【事前学習】 保育者像のイラストスケッチや説明文の下書きなどを準備する。(1時間)</p> <p>【事後学習】 理想の保育者に近づくために、今後身に付けていくべき専門性や保育技術等には何があるか考察する。(1時間)</p>
1 5	目指す理想の保育者像③と授業のまとめ ーポスター発表ー	<p>【学習内容】 「理想の保育者像」のポスター発表を実施し、他者に自グループの考える保育者像を伝えると共に、他グループの考える理想像を見て、保育者の在り方を考察する。</p> <p>【事前学習】 ポスター発表と同時に、捕捉の説明や質問があった場合の回答などをあらかじめ準備しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 自グループの保育者像と他グループのそれを比較するなどして、理想像に共通することがある一方、多様な価値と理想があることを知り、今後の学びに生かすことを考察する。(1時間)</p>
1 6	定期試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの心理学	石橋 孝明	1	前期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1206	
	担当教員	石橋 孝明				
【キーワード】	【概要】					
1 乳幼児	幼児教育・保育の実践のためには、人間の生涯発達について理解し、乳児期、幼児期の運動、言語、認知、社会性の発達について具体的に理解していることが重要である。本授業では、まず子どもの心身の発達に関わる内的・外的要因、発達理論について学び、幼児教育・保育における発達理解の意義について学ぶ。その上で、乳幼児期の身体機能、運動機能、言語、認知、社会性の発達について、その過程や特徴について学び、子どもの援助について考える。					
2 発達						
3 子どもの学び						
4 臨床的問題						
5 保育観						
【到達目標】						
1. 子どもの心身の発達について説明できる。						
2. 乳幼児期における運動、言語、認知、社会性の発達について説明できる。						
3. 子ども自身や子どもを取り巻く環境について、子どもの視点に立った捉え方ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	受講への取り組み	小テスト	合計		
評価割合 (%)	60	20	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
小テスト及び試験終了後には、試験の解説を行う。						
【教科書】						
『保育の心理学』青木紀久代編 みらい						
【参考書・参考資料等】						
『子どもも育つおとなも育つ 発達の心理学』柏木恵子著 萌文書林						
『子どもとかわる人のための心理学』沼山 博・三浦主博編著 萌文書林						
【関連科目】						
「子ども家庭支援の心理学」「保育内容関連の科目」						

【受講心得】		
自分の幼い時のことを振り返り、講義、演習と結びつけていく。 積極的に学ぶ姿勢で受講する。		
【備考】		
授業の進み具合で学習内容の一部変更もある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	<p><学習内容>授業の進め方及び授業の概要を説明する。また、心理学という学問についても説明する。</p> <p><事前学習>事前にシラバスを読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>心理学について授業で学んだことを整理する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(30分)</p>
2	子どもの発達及び保育観の変遷	<p><学習内容>発達の捉え方、子ども観、保育観の変遷について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第1～2章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
3	乳幼児期の社会情動的発達	<p><学習内容>乳幼児期に現れる情動の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第3章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
4	乳幼児期の身体の機能と運動の発達	<p><学習内容>身体機能と運動機能の発達について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第4章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
5	乳幼児期の学習に関わる理論 *小テスト	<p><学習内容>乳幼児期に関わる学習理論を中心に説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第5章(第4節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
6	乳幼児期の認知の発達	<p><学習内容>認知発達に関わる理論を、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第5章(第1～3節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
7	乳幼児期の言語・コミュニケーションの発達	<p><学習内容>乳幼児の言語の発達とコミュニケーションについて説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第6章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>

8	子どもの発達と臨床的問題① アセスメントと発達支援 *小テスト		<p><学習内容>子どもの障害把握やその評価法について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第7章(第1~3節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
9	子どもの発達と臨床的問題② 発達障害の種類と支援		<p><学習内容>子どもの発達障害及び知的障害について説明し、事例を用いて理解を深める。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第7章(第4~5節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
10	乳幼児期の学びに関わる理論(1)_1 愛着とは		<p><学習内容>愛着理論を中心に、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第8章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
11	乳幼児期の学びに関わる理論(1)_2 愛着関係と子どもの発達支援		<p><学習内容>愛着関係に問題がある事例を通して、愛着に関する理解を深める。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>虐待事例を調べ、どのような対応がなされるべきであったかについて考えておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
12	乳幼児期の学びに関わる理論(2)_1 遊びの発達		<p><学習内容>子どもの遊びの有用性について、研究結果を交えながら説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第9章(第1~2節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
13	乳幼児期の学びに関わる理論(2)_2 遊びが育む心の発達		<p><学習内容>遊びの中で育まれる心の発達について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第9章(第3~5節)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
14	乳幼児期の学びを支える保育 *小テスト		<p><学習内容>子どもの発達における保育の役割について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書の第10~11章を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
15	まとめ		<p><学習内容>これまで学習した内容の振り返りを行う。</p> <p><事前学習>これまで配付されたプリンを見返しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>振り返った内容をまとめ、理解を深める。(1時間)</p>
16	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの保健	楠野 雅子	1	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1209	
	担当教員	楠野 雅子				
【キーワード】	【概要】					
1 健康と保健	子どもの心身の健康と保健活動の意義。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題					
2 発育・発達と保健	子どもの身体的発育及び運動機能の発達と保健。生理機能の発達と保健					
3 心身の健康	子どもの心身の健康観察・心身の不調等の早期発見・身体発育の評価・健康診断・保護者との情報共有					
4 疾病予防	子どもの主な疾病の特徴。子どもの疾病予防及び適切な対応					
5 虐待防止	地域における保健活動と子どもの虐待防止					
【到達目標】						
1. 子どもの身体的な発育・発達と保健について学習し、子どもの心身の健康保持・増進を図る保健活動の意義を理解できる						
2. 子どもの心身の健康観察とその把握の方法について理解できる						
3. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	受講態度	提出物	合計		
評価割合 (%)	80	10	10	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
課題レポートは、コメントを返却するので、確認して返答すること。						
【教科書】						
『子どもの保健』中根淳子・佐藤直子編著 北川好郎・濱口典子著 ななみ書房						
【参考書・参考資料等】						
『保育所における感染症対策ガイドライン』『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 『実践保育学』帆足 英一監修 日本小児医事出版 『子どもの保健・実習』兼松百合子編 同文書院 『子どもの保健・健康と安全』同文書院 『子どもの保健テキスト』小林美由紀編著 診断と治療社 『子どもの保健』学健書院 『病気がみえる6 免疫・膠原病・感染症』メデックメディア						
【関連科目】						
『子どもの健康と安全』						

【受講心得】		
子どもが健康で安全な保育生活を過ごせるように、子どもの心身の健康保持・増進に必要な知識・技術の習得に努めてほしい		
【備考】		
保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	子どもの心身の健康と保健の意義	<p><学習内容>講義要項（シラバス）について 子どもの保健と健康保健活動の意義と目的 健康概念と健康指標 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 （地域における保健活動、虐待防止など） <事前学習>テキスト読んでおくこと（0.5時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）</p>
2	子どもの発育・発達と保健 ①身体発育及び運動機能の発達と保健	<p><学習内容>こどもの身体発育と運動機能の発達。乳幼児の身体計測の仕方、標準的な子どもの身体発育、発育の評価の仕方、子どもの運動発達 <事前学習>テキスト読んでおくこと（0.5時間） <事後学習>講義内容の復習。乳幼児の計測・記録・評価の仕方（身長・体重計測。パーセントイル曲線に記録・評価できるように）レポート提出（1時間）</p>
3	子どもの発育・発達と保健 ②生理機能の発達と保健	<p><学習内容>子どもの生理機能の発達と生活習慣。子どもと大人の生理機能の違い。子どもの生理機能の評価の仕方。生理機能の発達に応じた生活習慣 <事前学習>テキスト読んでおくこと（0.5時間） <事後学習>子どもの生理機能の特性を理解し、健康の正しい評価や異常の早期発見に役立てる。（バイタルサインについて）レポート提出（1時間）</p>
4	子どもの身体発育・発達と保健 ③発達に即応した基本的な生活習慣の形成	<p><学習内容>生活リズム形成における睡眠の意義、子どもの食習慣、排泄習慣、清潔習慣（手洗い・うがい・口腔ケア） <事前学習>テキスト読んでおくこと（30分） <事後学習>基本的な生活習慣（睡眠・食事・排泄・清潔）について月齢・年齢に即応した支援について（1時間）</p>
5	子どもの日常生活の養護	<p><学習内容>子どもの睡眠・休息、運動、遊び、抱き方、排泄の生理と排泄行動の発達、排泄の自律への援助、おむつ交換。<事前学習>関心がある参考書を読んでおく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）</p>
6	子どもの日常生活の養護	<p><学習内容>身体の清潔の意義。沐浴、清拭、衣生活、衣服の着脱、衣服の調整 <事前学習>関心がある参考書を読んでおく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）</p>
7	子どもの日常生活の養護	<p><学習内容>子どもの生活環境、子どもの栄養と食事、授乳、排気の方法 <事前学習>関心がある参考書を読んでおく（1時間） <事後学習>講義内容の復習（1時間）</p>
8	子どもの心身の健康状態とその把握 ①健康状態の観察 ②心身不調時の早期発見	<p><学習内容>子どもの健康状態の観察、心身不調時の早期発見、子どもの症状を見るポイント。2021年改訂項目 <事前学習>テキスト、保育所における感染症対応ガイドライン（1時間） <事後学習>健康状態の観察。心身の不調時の早期発見。登園時・食事・排泄・遊び・睡眠・降園時の観察、家庭での様子など（子どもの症状をみるポイント）レポート提出（1時間）</p>

9	子どもの心身の健康状態とその把握 ③体調不良時の対応		<p><学習内容>一般的な症状に対する子どものケア（発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛・頭痛時の対応）</p> <p><事前学習>テキスト、感染症対応ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>テキスト、保育所における感染症対策ガイドラインより体調不良時の対応について（発熱・けいれん・嘔吐など）レポート提出（1時間）</p>
10	子どもの疾病予防及び適切な対応（1） 子どもの免疫の発達と感染症		<p><学習内容>子どもの病気①子どもの免疫の発達と感染症の特徴。主な感染症と感染経路。子どものかかりやすい感染症</p> <p><事前学習>テキスト、感染症対応ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>感染症について。子どもの主な感染症。講義内容の復習レポート提出（2時間）</p>
11	子どもの疾病予防及び適切な対応（2） 感染症の予防及び適切な対応		<p><学習内容>感染経路と対策、医師の意見書が必要な感染症、予防接種</p> <p><事前学習>テキスト、感染症対応ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>講義内容の復習。感染経路、医師の意見書が必要な感染症（出席停止期間の基準）予防接種についてレポート提出（2時間）</p>
12	子どもの疾病予防及び適切な対応（3） 子どもの主な疾患の特徴と適切な対応		<p><学習内容>子どもの主な疾患の特徴</p> <p><事前学習>テキスト、感染症ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>講義内容の復習（2時間）</p>
13	子どもの疾病予防及び適切な対応（4） ①アレルギー疾患の特徴と適切な対応		<p><学習内容>アレルギー疾患に関する基本的な知識と、保育所における対応の基本原則</p> <p><事前学習>資料・テキスト・ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>講義内容の復習。主なアレルギー疾患（食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎・アレルギー性結膜炎・アレルギー性鼻炎）（2時間）</p>
14	子どもの疾病予防及び適切な対応（5） ②アレルギー疾患の特徴と適切な対応		<p><学習内容>保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表に基づく対応</p> <p><事前学習>資料・テキスト・ガイドライン（1時間）</p> <p><事後学習>講義内容の復習。生活管理指導表に基づく対応（食物アレルギー・気管支喘息・アトピー性皮膚炎）（2時間）</p>
15	まとめ		<p><学習内容>これまでのまとめ、子どもの心身の健康と保健、健康観察、身体発育測定、記録、評価。子どものかかりやすい主な疾患、感染症予防と対策、アレルギー疾患の対応</p> <p><事前学習>子どもの健康状態の観察と体調不良時の適切な対応、感染症の予防、アレルギー疾患など（1時間）</p> <p><事後学習>講義内容の復習（2時間）</p>
16	試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの食と栄養 I	宅間 真佐代	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1210	
	担当教員	宅間 真佐代				
【キーワード】	【概要】					
1 栄養	子どもの食生活は、生涯の健康と生活の基盤であり、その後の心と身体の健康に大きな影響を及ぼす。健全な発育・成長を促すために必要な栄養及び食生活に関して学ぶとともに各発達段階の生理的・身体的特徴についても理解する。また、栄養に関する基本的事項について理解を深める。					
2 食生活						
3 発育・発達						
4 乳児						
5 母乳栄養						
【到達目標】						
1. 栄養の基礎知識について理解し説明できる。						
2. 妊娠期・授乳期・乳児期・幼児期・学童期の生理的・身体的特徴について理解し説明できる。						
3. 母乳栄養・人工栄養及び支援について理解し説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験の成績					合計
評価割合 (%)	100					100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験終了後、解答解説を行う。						
【教科書】						
『子どもの食と栄養』 林俊郎編著 一藝社						
【参考書・参考資料等】						
参考書：『子どもの食と栄養』 堤ちはる・土井正子編著 萌文書林						
参考資料：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における食事提供のガイドライン』						
【関連科目】						
『子どもと保健』『乳児保育』等						
【受講心得】						
遅刻、欠席をしない。積極的な学習及び態度で臨む。理論と実習を通して、子どもの食と栄養についての理解を深めて欲しい。						

【備考】		
保育士必修科目 理解度に応じて学習内容の変更を行う場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	子どもの健康と食生活の現状	<p><学習内容>子どもの健康と食生活の現状について説明する。</p> <p><事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
2	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
3	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
4	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
5	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
6	栄養に関する基本的知識	<p><学習内容>栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について説明する。また、食事摂取基準と献立作成・調理の基本について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
7	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>講義の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
8	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
9	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>妊娠期・授乳期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>

1 0	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 1	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 2	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>新生児期・乳児期の生理的・身体的特徴及び食生活について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 3	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>乳児期の栄養補給法の説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 4	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>幼児期の栄養補給法の説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 5	子どもの発育・発達と食生活	<p><学習内容>学童期の栄養補給法の説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。(1時間)</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。(1時間)</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
1 6	試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと人間関係	飯塚 恭一郎	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1214	
	担当教員	飯塚 恭一郎 (実務家)				
【キーワード】	【概要】					
1 保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育内容5領域および「人間関係」領域について、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に準拠して理解を深める。 ・ 保育における「生活」と「遊び」の背景にある人とのかかわりと、子どもの発達や育ちの関係について学ぶ。 ・ 大人との愛着関係や信頼関係をはじめ、子ども同士や集団との関係性など保育現場に見るさまざまな人とのかかわりのあり方を、事例をもとにして理解していく。 					
2 人間関係						
3 信頼関係						
4 個と集団						
5 相互理解						
【授業のテーマ及び到達目標】						
1. 保育内容5領域と人間関係領域について、ねらいや内容の意味するところや領域の視点から子どもの育ちを見ることが出来る。 2. 子どもの生活と遊びをささえる周囲の人とのかかわりの重要性とそれによって保証される子どもの育ちの姿をイメージすることができる。 3. 保育の中で、子どもが多種多様な人々とのかかわり、個人と集団の関係性を成立させる社会規範について学んでいくことの重要性を説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・演習		受講態度	合計	
評価割合 (%)	40%	35%		25%	100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。						
【教科書】						
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館						
【参考書・参考資料等】						
『保育と人間関係』 矢野正 柏まり編著 (嵯峨野書院)						
【関連科目】						
「保育内容(人間関係)」 「保育原理」 「保育内容総論」						
【受講心得】						
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。						
【備考】						
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修						

【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス／保育内容5領域とは		<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。併せて「保育内容5領域」の概要について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスと『幼稚園教育要領解説』等に目を通しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（1時間）</p>
2	保育内容5領域と学びの原則		<p>【学習内容】 小学校の『学習指導要領』などとの比較を通して、「保育内容」と「領域」の根本的な理念を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に、「保育内容のねらいと内容」の説明がある箇所目を通しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布資料と『幼稚園教育要領』第2章を合わせて熟読し、「保育内容」と「領域」の根本的な理念の理解に努める。（1時間）</p>
3	5領域と「人間関係」領域①		<p>【学習内容】 保育内容5領域がしめす「ねらい」が表す「心情」「意欲」「態度」の意味を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章を中心に目を通し、各領域のねらいと「人間関係領域」について概観しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料を読み返し、保育内容5領域の「心情」「意欲」「態度」について理解を深める。（1時間）</p>
4	5領域と「人間関係」領域②		<p>【学習内容】 「人間関係領域」にフォーカスしてその保育内容のねらいといくつかの内容について『幼稚園教育要領解説』の該当個所の読解から学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章人間関係領域について13項目の内容について概観しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料を読み返し、人間関係領域の内容について理解を深める。（1時間）</p>
5	大人とのかかわりー信頼関係構築①ー		<p>【学習内容】 子どもと保育者との一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子どもと保育者との一対一の関係性について理解を深める。（1時間）</p>

6	大人とのかかわり－信頼関係構築②－	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する子どもの心情について映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)や前回授業の読解シートに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における子どもの心情について理解を深める。(1時間)</p>
7	大人とのかかわり－信頼関係構築③－	<p>【学習内容】 子どもと保育者の信頼関係構築のプロセスに内包する保育者の心情と保育のねらいについて映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子どもと保育者との一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子どもと保育者との一対一の関係性における保育者の思いと保育の配慮について理解を深める。(1時間)</p>
8	子ども同士のかかわり－個と個①－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係性について『幼稚園教育要領解説』の該当部分を専用シートを使って読解し、その内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』と共に授業内で使った読解シートを読み返し、子ども同士の一対一の関係性について理解を深める。(1時間)</p>
9	子ども同士のかかわり－個と個②－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係のなかにある個々の子どもの心情・思いについて、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)や前回授業の読解シートに目を通し、子ども同士の一対一の関係性についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係性のなかにある個々の子どもの心情・思いについて理解を深める。(1時間)</p>
10	子ども同士のかかわり－個と個③－	<p>【学習内容】 園生活での子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(1),(5)あるいは、内容の取扱い(1)などに目を通し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮についてあらかじめ概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども同士の一対一の関係を見守る保育者の役割と配慮について理解を深める。(1時間)</p>

1 1	集団の中でのかかわり 一個と集団①-	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団との関係性について理解を深める。(1時間)</p>
1 2	集団の中でのかかわり 一個と集団②-	<p>【学習内容】 園生活での子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について、映像教材をもとにしながら考察をする。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)、(8)や内容の取扱い(2)などに目を通し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮についてあらためて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、子ども個人と仲間集団やクラス集団を見守る保育者の役割や配慮について理解を深める。(1時間)</p>
1 3	多様な人とのかかわり - 気になる子どもなど -	<p>【学習内容】 いわゆる「気になる子ども」や異文化、多様な価値観を持った子どもとの関わりにつて、保育事例をもとに学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(7)などにあらかじめ目を通したり、様々な育ちの背景を持った友達と関わった自分自身の経験を振り返ったりしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、様々な育ちの背景を持った友達との関わりについて理解を深める。(1時間)</p>
1 4	地域とのかかわり - 学びの連続性 -	<p>【学習内容】 高齢者や小学校など、学びの連続性も視野に入れた地域との関わりについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章「人間関係領域」内容(13)や内容の取扱い(6)などにあらかじめ目を通すなどして、地域との関わりについて概観しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布プリント資料と『幼稚園教育要領解説』の該当部分を再読し、地域との関わりと「学びの連続性」概念について理解を深める。(1時間)</p>
1 5	授業の振り返りとまとめ	<p>【学習内容】 授業内容を振り返り、園生活における様々な人間関係について、一対一の関係を基本にして、人の心情理解が重要であることを再確認する。</p> <p>【事前学習】 授業内で配布されたプリント資料や『幼稚園教育要領解説』の人間関係領域箇所を再読しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 様々な人間関係における心情理解の重要性について、配布プリント資料等を整理、保存するなかで、再確認をしておく。(1時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

【実務家教員】

フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p>		
<p>【実務経験を生かした授業科目】 「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、 「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと言葉	青沼 典子	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1215	
	担当教員	青沼典子（実務家）				
【キーワード】	【概要】					
1 コミュニケーション	子どもの言語の獲得や発達過程について基礎的な知識を学習し、子どもの事例から理解を深めていく。保育技術の習得と、向上を目指し、グループでの制作活動や、保育実践を想定した演習を行う。絵本の読み聞かせの基本を学び、保育者としての実践力を付けていく					
2 児童文化						
3 絵本						
4 文字						
5 表現						
【到達目標】						
1. 子どもの言語の獲得や発達過程を学習し、子どもへの理解を深めていく						
2. 子どもの年齢に応じた様々な児童文化財を知り、実践演習による保育技術の習得向上を目指す。						
3. 絵本の読み聞かせ等の基本を学び、保育者としての実践力を付けていく						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	提出物、課題	演習、受講態度	合計		
評価割合 (%)	50	30	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
小テスト等は模範解答及びコメントを返却する。解説を聞き、やり直しをして確実に理解をすること。						
【教科書】						
子どもの姿から始める領域・言葉 シリーズ知のゆりかご 編著者 秋田喜代美・三宅茂夫監修 みらい(株)						
【参考書・参考資料等】						
『保育と絵本』 瀧 薫著 エイデル研究所						
【関連科目】						
保育内容全般 「子どもの心理学」						

【受講心得】		
児童文化財について、日頃より幅広く親しむ グループ活動には積極的に参加すること。 子どもに関する情報に関心を持つ。		
【備考】		
幼稚園教諭必修科目		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 子どもの言葉の発達	【学習内容】今からの学習についての見通しを持たせる。人にとって言葉はどのような働きをするのか？言葉を持つことはどのような意味を持っているのか、言葉のコミュニケーションについて基本的な事を考える。 （事前学習）シラバスをみて、今後の学習についての見通しを持つ。（30分） （事後学習）授業後、言葉について感じたことをまとめ、感想を書く（30分）
2	乳幼児の言葉の発達 ①0～2歳の言葉の発達	【学習内容】生まれてからどのように言葉を獲得していくかを、自身や周りの子どもに置き換え、身近なところから実感させながら学習を進める。感想を書く （事前学習）テキストの指定された章を読んでくる。どのような内容かを把握しておく。（30分） （事後学習）、きょうの内容をまとめる。言葉の例を考え、ノートする。（30分）
3	乳幼児の言葉の発達 ② 3～5歳の言葉の発達	【学習内容】言葉を獲得していく道筋をたどる。2歳までが最も獲得の著しい大事な時期なので、表や例を用いて理解させる。初めて出会う用語について理解する。感想を書く。 （事前学習）前回の内容を振り返り見ておく、テキストの指定されたページを読んでおく。30分 （事後学習）、振り返りとまとめ（30分）
4	乳幼児の言葉と絵本	【学習内容】小テストで言葉獲得の道筋の理解を図る。絵本の基本についての学習。絵本が子どもの成長、言葉、感性にどのように働きかけるのか？絵本の基本について学ぶ。自分の名前の由来について聞いてくる。愛着につなぐ。感想を書く。 （事前学習）言葉の獲得について（30分） （事後学習）乳児の絵本を探し、読んでみる（30分）
5	年齢ごとの子どもの姿と言葉 児童文化の世界①絵本、紙芝居	【学習内容】小テストを配り、解説をする。間違ったところに書き加えをする。 児童文化について知る。絵本を中心にその他の言語児童文化についてもりかいをし、将来につないでいく （事前学習）指定されたテキストの章を読んでおく。（30分） （事後学習）小テストのまとめ、大事なところを確実に理解する。（30分）
6	年齢ごとの子どもの姿と言葉 児童文化の世界② わらべうた、てあそび	【学習内容】領域「言葉」のねらいと内容について理解するねらい、内容の書き取りをし、その意味を知っていく。わらべうた、てあそびの実際。 （事前学習）テキストの指定された章を読んでくる。どのような内容かを把握しておく。（30分） （事後学習）（30分）
7	感性を育む保育活動（読み聞かせの実際） ①	【学習内容】図書館で子どもの本を探す。年齢ごとの本を見てみる。読み聞かせの基本、読み聞かせのポイントの復習。グループごとの読み聞かせ実践に繋がる絵本を選ぶ。 （事前学習）指定されたテキストの章を読む（30分） （事後学習）読み聞かせの練習（30分）
8	感性を育む保育活動（読み聞かせの実際） ②	【学習内容】グループに分かれ、その中で一人ずつ絵本を読み聞かせ実践する。それぞれのいいところ、もう少しの所をレポートする。振り返りを行う （事前学習）絵本調べ（30分） （事後学習）読み聞かせ復習（30分）

9	感性を育む保育活動（こどもの好きな絵本）③		<p>【学習内容】言葉のおもしろさ、楽しさ、繰り返し、リズム、オノマトベなどのポイント、まとめ。 0, 1, 2歳。3, 4, 5歳の姿に対しての絵本を考える。 来週からの活動について知り。課題を意識する。 （事前学習）指定されたテキストの章を読む（30分） （事後学習）読み聞かせのポイント復習（30分）</p>
10	言葉を育む保育実践（絵本からの展開）①		<p>【学習内容】グループで何をするか、考え、出し合う。必要な物、計画などを話し合う。グループで台本づくり、出来るところから取り掛かる。 （事前学習）保育園の園児にしてあげたいことを考えて調べてくる（30分） （事後学習）、来週にむけてのとりかかりや材料等をグループで確認しあう、感想や反省をレポートする（1時間）</p>
11	（絵本からの展開）②		<p>【学習内容】各グループで企画したことを進める。練習まで出来るように。練習を通し、台本を練り直す。 （事前学習）材料、道具などを前もって準備（30分） （事後学習）感想、反省、次回へのつながりを書く（30分）</p>
12	（絵本からの展開）③		<p>【学習内容】すぐに練習にとりかかる。時間を決めてクラス全員の前で実践できるように練習する。各グループの実践の感想を伝え合い、保育園での発表に繋げる。 （事前学習）グループごとに準備をしておく（30分） （事後学習）準備の確認。練習（1時間）</p>
13	発表（保育園）		<p>【学習内容】保育園で実践する、子どもたちに楽しい時間になるように何が大切かを各自考えさせる。練習してきたことを実践する。 （事前学習）練習。（30分） （事後学習）感想、反省を書き、次につないでいけるようにする。（30分）</p>
14	実践の振り返り・フィードバック、その他の児童文化財		<p>【学習内容】グループごとに実践したことの反省等、発表する。保育園からの感想や助言等をフィードバックする。子どもの前で実践したことを振り返り、こどものすがたを知ることの大切さを理解する。 （事前学習）反省や感想のまとめ。（30分） （事後学習）全体の感想を書く（30分）</p>
15	子どもと言葉まとめ・解説		<p>【学習内容】子どもと言葉で学んだことを振り返り、大切な箇所を確認する。まとめの資料を解説する。 （事前学習）テキストの指定された章を読んでくる。（1時間） （事後学習）全体を振り返りまとめの学習をする（1時間）</p>
16	定期テスト		

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。		
【実務経験を生かした授業科目】 「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」 「保育・教職実践演習」		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと表現	篠原 利朗	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1216	
	担当教員	篠原利朗				
【キーワード】	【概要】					
1 想像力	<p>子どもの想像力を豊かにし、感性を養うために、子どもの発達と造形表現に関する知識と技術を習得する。また、造形表現活動では様々な素材や教材、用具等の特性を理解することが必要となる。そこで本授業では、子どもの立場に立って保育現場で展開できる実技活動を体験し、指導の方法等も考えながら子どもの表現について学習する。学生自らの感性と表現力を高めることも重要である。</p>					
2 感性						
3 発達						
4 造形表現						
5 表現力						
【到達目標】						
<p>1. 幼児期の特性と表現活動の関係について理解できる。 2. 様々な表現材料や用具等の特性を理解し、それを活かした表現方法を実践できる。 3. 様々な演習課題の制作を通して、自らの感性と表現力を高めることができる。</p>						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度等		発表活動		各表現活動における課題	合計
評価割合 (%)	20		20		60	100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
理解度	授業内容を越えた自主的な学習が大いに認められる。	授業内容を越えた自主的な学習が認められる。	授業内容を十分に理解している。	到達目標に達していることが認められる。		
作品	授業内容を越えた自主的な学習が認められる内容、あるいは参考作品として紹介できる完成度を有した作品を制作している。	提示された課題の内容と素材の特性を理解した上で、表現の工夫等を取り入れて制作することができる。	提示された課題の内容と素材の特性を理解し制作することができる。	提示された課題の内容と素材の特性について最低限理解し制作することができる。		

積極性	自ら興味を持って課題への取り組みや関連する知識の取得を能動的に遂行できる。	積極的に課題への取り組み、問題解決しようとしている。	教員の指導を尊重し、課題への取り組みができる。	最低限の課題への取り組みをしている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。						
【教科書】 『コンパクト版・保育内容シリーズ造形表現』（編）竹井史 一藝社						
【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館） 『子どものための美術—Art for Children—』 篠原利朗他（日本文教出版）						
【関連科目】 「保育内容（造形表現）」						
【受講心得】 表現活動であるため、他者との比較ではなく自分なりの表現を楽しむよう心がける。また他者の表現方法を理解し、自分の表現に生かせるように学ぶ。						
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	オリエンテーション		<学習内容>保育における造形表現のねらい及び内容について説明する。また、小学校教科との関連についても説明する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（0.5時間）			
2	色彩について（講義）		<学習内容>色のしくみ（色相・明度・彩度・トーン）、混色等について説明する。 <事前学習>中学校美術での色彩についての学習を振り返っておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）			
3	配色イメージについて（講義）		<学習内容>暖かいー冷たい、かたいーやわらかい、楽しいー悲しい、などのイメージを配色によって表現することを学ぶ。 <事前学習>ファッションやパッケージ、あるいは身近にあるものの配色に対し、どのようなイメージを持つかを考えておく。（1時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）			
4	色紙による表現活動（四季のイメージ）		<学習内容>色紙（トータルカラー）を用いて四季のイメージを表現する。 <事前学習>トータルカラーの色構成について確認しておく。（1時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）			
5	紙工作による表現活動（カードづくり） （1）		<学習内容>ポップアップカードの基本パターンを制作し、折りたたみの原理を学ぶ。 <事前学習>ポップアップカードの作品例を調べておく。（1時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）			

6	紙工作による表現活動（カードづくり） （2）		<p><学習内容>ポップアップカードを応用して、バースデーカードやクリスマスカード等のメッセージカードを制作する。<事前学習>どのようなメッセージカードを制作するか考えておく。（0.5時間）<事後学習>学んだ表現方法を記述しておく。（1時間）</p>
7	遊びと表現活動（コマあそび）（1）		<p><学習内容>ぶんぶんごまの制作方法について解説する。 <事前学習>回転混色の原理について復習しておく（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
8	遊びと表現活動（コマあそび）（2）		<p><学習内容>魅力的なコマ、そうでないコマについて解説する。 <事前学習>ぶんぶんゴマを完成しておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（0.5時間）</p>
9	水彩絵の具の使い方		<p><学習内容>水彩絵の具の基本的な使い方（水の量の調節、混色等）について学習する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
10	絵の具による表現活動（合わせ絵などの遊びと表現）（1）		<p><学習内容>モダンテクニックの一つであるデカルコマニーを使った絵あそびの技法と表現について説明する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）<事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
11	絵の具による表現活動（合わせ絵などの遊びと表現）（2）		<p><学習内容>デカルコマニーで制作した色紙による蝶々制作の技法と表現について説明する。<事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間）<事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
12	絵の具による表現活動（霧吹きによる遊びと表現）		<p><学習内容>モダンテクニックの一つであるスパッタリングを使った遊びの技法と表現について説明する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
13	クレパスによる表現活動（引っ掻き絵による表現）（1）		<p><学習内容>モダンテクニックの一つであるスクラッチの技法と表現について解説する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
14	クレパスによる表現活動（引っ掻き絵による表現）（2）		<p><学習内容>モダンテクニックの一つであるスクラッチの技法と表現について解説する。 <事前学習>材料や題材の事前研究を行う。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>
15	まとめ		<p><学習内容>各表現活動を整理してノートにまとめる。 <事前学習>すべての授業の振り返りを行っておく（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る（0.5時間）</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導 I (保育所)	豊辻 晴香	1・2	通年	演習	選択	1
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1219	
	担当教員	豊辻 晴香、高口 知浩、飯塚 恭一郎				
【キーワード】	【概要】					
1 保育所実習	保育実習（保育所）の事前・事後指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行う。事前指導では実習生としての心得に始まり、実習に関わる観察法、記録や指導計画等の記述法、遊びや指導の技術等、実習に求められる基本的な知識と技能を学ぶ。実習終了後の事後指導では、実習の振り返りや自己評価を行い、自らの今後の課題を明らかにして学習目標を持つ。					
2 子どもの生活						
3 子どもの人権						
4 観察・記録						
5 指導計画						
【到達目標】						
1. 保育実習の意義、目的、内容を理解し、自らの実習の課題を明確にできる。						
2. 保育における、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護や守秘義務等について理解できる。						
3. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	受講態度	事前準備・事後活動	課題・提出物等	合計		
評価割合 (%)	20	50	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に事前準備等に取り組む。	決められた課題を見付け事前準備等に取り組む。	教員の指導を受けて自ら改善しながら事前準備等に取り組む。	教員から多くの指導・助言を受けながら事前準備等に取り組む。		
専門性	保育者としての視点を充分にもち、知識・技術獲得に主体的に取り組む。	保育実習生としての視点をもち、知識・技術獲得に取り組む。	保育実習生としての視点をもち、知識・技術獲得に取り組む。	指導を受けた知識・技術を得る。		
観察・記録	記録の意図を理解し、保育者の視点で観察したものを考察を述べながら書式に則って記録することができる。	保育者の視点で観察したものを、少しの考察をしながら書式に則って記録することができる。	自分なりに観察したものを書式に則って記録することができる。	多くの指導等を受けながら観察したものを記録することができる。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。		
【教科書】 『実習のてびき』 純真短期大学こども学科 及び各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『実践につながる新しい教育・保育実習』 大浦賢治・谷口征子著（ミネルヴァ書房） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）		
【関連科目】 「保育実習Ⅰ（保育所）」 「保育実習Ⅱ」 「保育実習指導Ⅱ」		
【受講心得】 遅刻、欠席の回数や受講態度、提出物の遅れなどが重なった場合は実習中止等の判断をする場合がある。		
【備考】 保育士課程必修。状況により学習進行や順番が変わる場合がある。 実習に係る諸手続き等のために、実習園を訪問することがある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保育所実習の意義・目的・概要	全員	【学習内容】 保育所実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に通しておく。 (0.5時間) 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)
2 保育所の役割と機能、および子どもの姿	全員	【学習内容】 視聴覚教材などを通して、保育所の機能や子どもの生活について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に通しておく。 (0.5時間) 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。(0.5時間)
3 実習に際しての留意事項①： 子どもの人権等	全員	【学習内容】 子どもの人権に配慮された保育、そして保育士に求められる守秘義務等について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に関わる資料に通しておく。(0.5時間) 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て日々の自分の立ち居振る舞い等を見直す。(0.5時間)
4 実習に際しての留意事項②： 実習生としての心構え	全員	【学習内容】 実習生として子どもの前に立つことを前提にした心構えと求められる態度について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に関わる資料に通しておく。(0.5時間) 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て日々の自分の立ち居振る舞い等を見直す。(0.5時間)

5	実習内容の種類と段階	全員	<p>【学習内容】 実習内容の種類と段階として「観察実習」「参加実習」「指導実習」について具体的な実習内容を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て各実習の段階の違いとそこでの学びの違いについて理解を深める。(0.5時間)</p>
6	実習の記録と日誌の記述①	全員	<p>【学習内容】 保育観察や実習内容の「記録」の必要性と、ツールとしての「日誌」の役割と記述方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日誌についてイメージをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日誌に関する資料やテキストをリサーチし、日誌記述の具体例の情報収集をする。(0.5時間)</p>
7	実習の記録と日誌の記述②	全員	<p>【学習内容】 「実習日誌」の項目ごとの記述方法を知り、保育事例をもとに記述演習を行う。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日誌についてイメージをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日誌に関する資料やテキストをリサーチし、日誌記述の具体例の情報収集をする。(0.5時間)</p>
8	実習の記録と日誌の記述③	全員	<p>【学習内容】 「実習日誌」の記述演習サンプルをもとに、日誌にふさわしい文章記述の要点を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日誌記述のサンプルページを中心に目を通し、自分の記述した日誌演習シートに目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自分の日誌演習シートと授業内で紹介された日誌サンプルを比較し、記述の要点を復習する。(0.5時間)</p>
9	指導計画と指導案づくり	全員	<p>【学習内容】 指導計画を立てることの必要性と意義を知り、指導案の構造について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 具体的な保育内容をイメージしてその流れを言語化するシミュレーションをする。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布された部分指導案のサンプル資料と授業内容の記録メモをもとに、指導案の構造と描写すべき内容の理解を深める。(0.5時間)</p>
10	実習の課題の明確化①： 実習目標	全員	<p>【学習内容】 日々の実習において、その日の「学びの課題」を設定し実習に取り組むことの重要性を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。(0.5時間)</p>

1 1	実習の課題の明確化②： 保育技術課題	全員	<p>【学習内容】 実習で取り組む保育技術課題（絵本読み、紙芝居、手遊び、ピアノなど）を復習し、実習に備える。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。（0.5時間）</p>
1 2	提出書類の作成・配付①	全員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理・保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。（0.5時間）</p>
1 3	提出書類の作成・配付②	全員	<p>【学習内容】 実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理・保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。（0.5時間）</p>
1 4	実習の振り返りと自己評価	全員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして実習の学びを整理する。（0.5時間）</p>
1 5	今後の課題の明確化	全員	<p>【学習内容】 保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと自己評価等の学びを整理をベースに、保育実習Ⅱにむけて自己の実習課題を明確にする。</p> <p>【事前学習】 再度、保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 実習日誌を核に、実習指導の中で配布されたプリント資料等を保育実習Ⅱに活かせるように整理しておく。（0.5時間）</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習指導 I (施設)	谷川 知士	1・2	通年	実習	選択	2
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1220	
	担当教員	谷川知士、砥上あゆみ				
【キーワード】	【概要】					
1 施設実習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先である児童福祉施設・障害者支援施設（以下、福祉施設）の機能や役割について、理解する。 ・福祉施設で働く専門職としての保育士の仕事内容や役割について理解する。 ・福祉施設の入所者の実態について理解する。 ・入所者への配慮事項について、特に人権擁護や守秘義務のあり方を理解する。 ・施設内外の専門職や連携の必要性とその方法について理解する。 					
2 福祉施設						
3 子どもの権利						
4 守秘義務						
5 連携						
【到達目標】						
1. 施設実習の意義や目的が理解できる。 2. 保育士に求められる仕事内容が理解できる。 3. 子どもの最善の利益について、施設で配慮されている内容が理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	取り組み姿勢・受講態度		レポート提出等			合計
評価割合 (%)	30%		70%			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
積極性	何事にも自分から積極的に行動することができる。	場面によっては自分から積極的に行動することができる。	積極的に行動しようとする姿が見られることがある。	周りからの助言があると行動することができる。		
協調性	誰とでも協力して取り組むことができる。	場面によって協力し、取り組むことができる。	協力して取り組もうとする姿が見られる。	周りの働きで取り組むことができる。		
学習態度	自ら課題を見つけ意欲的に学習できる。	意欲的に学習しようとする姿が見られる。	自ら学習しようとする姿が見られることがある。	周りからの働き掛けで学習しようとする姿が見られる。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
実習後に事後指導を行い、発表する機会を設定し学生同士で反省点等を共有させ、実習Ⅲに活かす。						

【教科書】		
『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『保育所保育指針解説』 厚生労働省（フレーベル館）		
【参考書・参考資料等】		
『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）		
【関連科目】		
保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 保育実習Ⅱ 保育実習Ⅱ子ども家庭福祉 社会的養護Ⅰ・Ⅱ		
【受講心得】		
・実習に行く福祉施設の役割や目的を知り、入所者や職員の仕事内容を理解しようとする態度を養っておく。		
【備考】		
保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 施設実習の意義・目的	全員	【学習内容】 施設実習の概要とその意義、目的について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
2 福祉施設の種類の役割	全員	【学習内容】 視聴覚教材などを通して、施設の種類や機能について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 授業内容の記録と合わせて「実習のてびき」の該当部分を熟読する。（0.5時間）
3 施設を利用する子どもの理解	全員	【学習内容】 施設を利用する子どもの、人権に配慮された保育について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て子どもを理解する。（0.5時間）
4 施設を利用する利用者の理解	全員	【学習内容】 施設を利用する子どもや障害児・者について学ぶ。 【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所目を通しておく。（0.5時間） 【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て、利用者理解を促進する。（0.5時間）

5	保育士の役割と支援方法	全員	<p>【学習内容】 福祉施設における保育士の役割を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所や「子どもの権利」に関わる資料に目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」あるいは授業内で配布されたプリント資料と授業内容の記録メモを見て保育士の役割について理解を深める。(0.5時間)</p>
6	児童福祉施設の保育士の仕事内容	全員	<p>【学習内容】 福祉施設における保育士の仕事内容を理解する。</p> <p>【事前学習】 児童福祉施設の種類やそこでの保育士の仕事内容について調べておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自分が行く予定の施設に関する資料をリサーチし、保育士の仕事内容の情報を収集をする。(0.5時間)</p>
7	実習の日記の記述内容②	全員	<p>【学習内容】 「実習日記」の項目ごとの記述方法を知り、事例をもとに記述演習を行う。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日記記述のサンプルページを中心に目を通し、記録と日記についてイメージをしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 「実習のてびき」以外の記録と実習日記に関する資料やテキストをリサーチし、日記の具体例の情報を収集する。(0.5時間)</p>
8	実習日記の視点と記述	全員	<p>【学習内容】 「実習日記」の記述について、観察等の視点を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の日記記述のサンプルページを中心に目を通し、日記演習シートに目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自分の日記演習シートと授業内で紹介された日記サンプルを比較し、記述の要点を復習する。(0.5時間)</p>
9	実習先の詳細調査と理解	全員	<p>【学習内容】 指導計画を立てることの必要性と意義を知り、指導案の構造について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 具体的な保育内容をイメージしてその流れを言語化するシミュレーションをする。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で配布された部分指導案のサンプル資料と授業内容の記録メモをもとに、指導案の構造と描写すべき内容の理解を深める。(0.5時間)</p>
10	実習の心得と目標の明確化 (実習目標の立て方)	全員	<p>【学習内容】 日々の実習において、心得と目標の立て方を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、実習日記の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目標について理解を深める。(0.5時間)</p>

1 1	実習課題の明確化② (課題の見つけ方・整理方法)	全員	<p>【学習内容】 実習時の課題を整理し、次の実習に備える。</p> <p>【事前学習】 あらかじめ「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、実習日誌の記述部分などを確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習の段階にも関連させて、10日間の実習日程における学びの課題と目的について理解を深める。(0.5時間)</p>
1 2	実習先への提出書類作成・配付①	全員	<p>【学習内容】 施設実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、記述のポイントを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理・保存をしつつ、各書類の必要性について理解を深める。(0.5時間)</p>
1 3	実習先との連絡調整	全員	<p>【学習内容】 施設実習に関わる種々の事務的な書類と手続きがあることを知り、実習先との連絡調整方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 「実習のてびき」の該当箇所に目を通し、どのような事務手続きと書類が必要かを把握しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された事務的な書類と資料を適切に整理・保存をしつつ、各書類の必要性の理解を深める。(0.5時間)</p>
1 4	施設実習の振り返りと自己評価	全員	<p>【学習内容】 施設実習を振り返り、実習経験からの学びを整理する。</p> <p>【事前学習】 実習日誌を読み返すなどして、実習経験を簡単に振り返っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で実施した振り返り記述をもとに、あらためて実習日誌を読み返すなどして実習の学びを整理する。(0.5時間)</p>
1 5	施設実習の今後の課題	全員	<p>【学習内容】 施設実習の振り返りと自己評価等の学びを整理をし、施設実習Ⅲにむけて自己の実習課題を明確にする。</p> <p>【事前学習】 再度、施設実習の振り返りと学びを整理し、残している実習課題を洗い出しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実習日誌を核に、実習指導の中で配布されたプリント資料等を施設実習Ⅲに活かせるように整理しておく。(0.5時間)</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育基礎研究 I		青沼 典子		1	前期	演習	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1221		
		担当教員	青沼典子（実務家）、飯塚恭一郎（実務家） 岩見廣和、松尾俊治					
【キーワード】		【概要】						
1	人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 「人との関わり」について、自らの経験や出会いをもとに、保育者の専門性として理解していく。 サービスラーニングを通して実際の子どもの触れ合いや遊びを体験する。 保育や教育における基礎的な技術・技能の必要性を知り、演習を通して保育技術習得の意欲を高める。 						
2	子ども理解							
3	自然							
4	遊び							
5	実践							
【到達目標】								
1. 保育の仕事に不可欠な人との関わりについて考えることができる。 2. サービスラーニングや演習を通して保育に必要な専門的な技術や技能があることがわかり、その修得への意欲を持つことができる。 3. 保育者に求められる資質に気づき、考えることができる。								
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	受講への取り組み方・意欲態度			課題提出			合計	
評価割合 (%)	30%			70%			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】								
各演習の結果と内容に対して、口頭あるいはプリント資料によって講評を行う。								
【教科書】								
各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。								
【参考書・参考資料等】								
『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』								
【関連科目】								
幼稚園・保育所 関連科目全般								
【受講心得】								
実践学習、体験学習、グループ活動等は意欲的に取り組むこと。遅刻、欠席はしない								

【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 授業ガイダンス	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（0.5時間）</p>
2 「フレッシュマンセミナー」参加とコミュニケーションワーク1	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 学科内初年次教育授業「フレッシュマンセミナー」と兼ねてコミュニケーションワークに取り組む。</p> <p>【事前学習】 「フレッシュマンセミナー」の資料に目を通し、授業プログラム内容を把握しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 ワークを通してコミュニケーションを図ることができた仲間について振り返り、自分の立つ位置を自覚する。（0.5時間）</p>
3 コミュニケーションワーク2	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 これからの学校生活、今までの人間関係等、自分の事を知り、仲間を受け入れ、人間関係を繋げ、広げていく為のワークを経験する。（同郷の仲間を知り、安心感を基本に仲間を広げる）</p> <p>【事前学習】 前回の授業内容全体の振り返り、これまでの自分自身の学生生活の人間関係について簡単に総括をしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 授業内のワークにおいて経験したこと、これまでの人間関係に関わる経験を振り返っておく。（0.5時間）</p>
4 コミュニケーションワーク3	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 同郷の仲間や、地域の仲間を知り、ふるさと自慢や、おすすめのお食べ物、スポットなど、紹介したいものなどをお互いに出し合い、ポスター発表出来るように検討していく。ポスター作り</p> <p>【事前学習】 ふるさと自慢を考えておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 ポスター発表について考えておく（0.5時間）</p>
5 コミュニケーションワーク4	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 ポスター発表を見合う。コミュニケーションワーク（振りかえりをする）での繋がりを踏まえ、保育を学ぶ学生として、現場に直結した演習をしていくという今からの予定と見通しを持ち、今からの授業を期待する。</p> <p>【事前学習】 振り返りをまとめておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 花冠の作り方を理解しておく（0.5時間）</p>
6 保育実践演習のためのガイダンス	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 保育実践に向けての演習授業の一つ、手袋シアター、ペーパーサート作りに取り組む（クラス単位で2コマづつ、いずれかを作り、交代し、両方を仕上げる）</p> <p>【事前学習】 自分が何を作りたいかを調べ、題材を決めておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 時間等の見通しを立て、仕上がっていくように事後学習で補足しておく（0.5時間）</p>

7	春の自然と子どもの遊び サービスラーニング	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 学校にあるシロツメクサについて知り、身近な植物で遊ぶ方法や冠の作り方を実践する、こどもの園のこどもたちを招待し、作り方を教えたり、プレゼントをして子どもと触れ合う。</p> <p>【事前学習】 花冠の作り方を理解しておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 子どもの姿や冠作りについての振り返りをまとめる (0.5時間)</p>
8	手袋シアター作り ペーパーサート作り	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 作品を実践発表するために台本作りをする</p> <p>【事前学習】 作品仕上げ (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 台本をもとに練習をする 友達同士で練習をして、お互いにアドバイスしあう。また、こども目線での意見を出し合い、発表に備える (0.5時間)</p>
9	手袋シアター作り ペーパーサート作り	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 手袋シアター、又はペーパーサートを作る。自分で決めた題材を工夫して作り上げていく</p> <p>【事前学習】 準備する物、不足物等の確認をしておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 次に抜けての段取りや、手順等の確認をしておく (0.5時間)</p>
10	手袋シアター作り ペーパーサート作り	飯塚 青沼	<p>【学習内容】 手袋シアター、又はペーパーサートを作る。自分で決めた題材を工夫して作り上げていく</p> <p>【事前学習】 準備する物、不足物等の確認をしておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 次に抜けての段取りや、手順等の確認をしておく (0.5時間)</p>
11	手袋シアター作り ペーパーサート作り 仕上げ	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 手袋シアター、又はペーパーサートを作る。自分で決めた題材を工夫して作り上げていく。お互いの作品を見合う。それぞれの作品を認め合い、刺激とする。作り上げたられんしゅうをする。子どもたちに見てもらふ事を想定して練習する。グループでお互いアドバイスしながら仕上げていく。</p> <p>【事前学習】 準備する物、不足物等の確認をしておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 次に抜けての段取りや、手順等の確認をしておく (0.5時間)</p>
12	作品披露 発表にむけての練習		<p>【事後学習】 次に抜けての段取りや、手順等の確認をしておく (0.5時間)</p>
13	サービスラーニング 子もの前で実践発表	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 こどもたちに学生の実践を見に来てもらう。こどもの目線や子どもの楽しみ方、喜びなど実践を通して感じ、次につないで行けるようにする。</p> <p>【事前学習】 子どもたちに見せることができるように練習しておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 実践の振り返りをする (0.5時間)</p>
14	実践の振り返りと今後への課題	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 実践の振り返りをする。想定していたこどもの姿、自分のやり方、技術、姿勢等、反省や分析をして次に繋げるようにする。文書で残して基礎研Ⅱの終わりの時振り返りと比べられるようにしておく</p> <p>【事前学習】 振り返りのまとめ (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 振り返りをする (0.5時間)</p>
15	保育教育基礎研究Ⅰのまとめと基礎研究Ⅱへの展望	青沼 飯塚	<p>【学習内容】 基礎研究Ⅰでの学びを振り返る。今後、どのようなことが必要になるか？どのような経験や力をつけて行けばよいかなどを考え、基礎研究Ⅱへ繋ぐ。教育基礎研究Ⅱの大まかな見通しをきき、期待を持つ</p> <p>【事前学習】 基礎研究Ⅰでの学びを振り返っておく (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 振り返りをする (0.5時間)</p>

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】</p> <p>幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】</p> <p>「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」 「保育・教職実践演習」</p>		

フリガナ	イイツカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】</p> <p>幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】</p> <p>「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、 「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現 I	小野 弥生	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1223	
	担当教員	小野 弥生、水崎 玄				
【キーワード】	【概要】					
1 譜読み	保育・教育現場の実践（演奏）が円滑に行われるための必要不可欠な「楽典」を学ぶ。又、併せて「声楽」の分野にも触れ、正しい声の出し方や正確な音程での歌い方等を学び、現場で実践できる様々な歌を情感豊かに歌える技能を身につける。授業は1コマを前半後半に分け、「楽典」と「声楽」を学ぶ。					
2 音楽の仕組み						
3 演奏法						
4 発声法						
5 表現						
【到達目標】						
1. 音楽の基礎知識を習得し、実際のピアノ演奏に役立てることができる。						
2. 声楽の分野に触れ、正しい声の出し方を学び様々なジャンルの曲を歌う事ができる。						
3. 総合的な音楽教育法を身につけ、現場で実践する事ができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験の「楽典」	「声楽」	受講態度	合計		
評価割合 (%)	50	30	20	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
知能・技能（実技テスト）	基本的技術が身に付いており表現力豊かな優れた演奏	基本的技術が身に付いており概ね正確に演奏できる	基本的技能があまり身に付いていない為、正確に演奏	基本的技能が身に付いていない為、正確に演奏できない		
楽典の基本的知識（筆記試験）	基本的知識が正確に理解できている	概ね基本的知識が正確に理解できている	あまり理解できていないが、理解しようとして努力している	ほとんど理解できていない。理解しようとしていない		
主体的に学習に取り組む態度（学習態度）	意欲的に参加し、自主学習を行い知識・技能が身に付	自主学習を行い知識・技能が身に付いている	自主学習を行い知識・技能が概ね身に付いている	自主学習を行う事ができていない為、あまり身に付		
主体的に学習に取り組む態度（グループワーク）	他者と協力して積極的に課題に取り組む事ができる	他者と協力して課題に取り組む事ができる	他者と協力して概ね課題に取り組む事ができる	協調性を持って課題に取り組む事ができない		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
「楽典」理解不足の生徒に対しては授業形式で追加の説明をする。「声楽」課題発表時に改善点を指導する。		
【教科書】		
『あなたも弾けるやさしい童謡唱歌集』著 豊辻晴香他 『これだけは知ってほしい楽典 初めの一步 保育士、幼稚園・小学校教諭を志す人たちへ』 著 田中美江他 カワイ出版		
【参考書・参考資料等】		
『こどものうた200』『続・こどものうた200』小林美実 編者 チャイルド本社		
【関連科目】		
「音楽表現Ⅱ～Ⅳ」 「子どもの表現」 「音楽表現指導法」		
【受講心得】		
積極的に授業参加を心がけ、毎回の授業での不明な点は、随時質問する事。		
【備考】		
保育士課程 選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション	全員	「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞授業の進め方と内容の説明。プリントによる楽典に対する習熟度の確認。 ＜事前学習＞テキストに目をとおしておく。(1時間) ＜事後学習＞課題曲の譜読みをする。(1時間)
2 五線譜と音名・腹式呼吸の説明と発声の基礎	全員	「楽典」＜学習内容＞基本的な楽譜の記号の名称と音名。 ＜事前学習＞テキストp4～p7を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞音符から音名が読めるようにしておく(1時間) 「声楽」＜学習内容＞呼吸法と発声法のトレーニングをする。＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞課題曲を一人で歌えるように練習する。授業の到達目標を参考に自己の目標を設定する。(1時間)
3 音の長さ・発声練習「春の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞前回の復習。音の長さや表記法。 ＜事前学習＞テキストp7～p16を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞音名と長さを必ず覚える(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法①課題曲発表。春の歌。 ＜事前学習＞課題曲を歌えるように練習をする。(1時間) ＜事後学習＞春の歌を歌えるように練習する。(1時間)
4 リズムと拍子・発声練習「夏の歌」	全員	「楽典」 ＜学習内容＞前回の復習。リズムの取り方と表記。 ＜事前学習＞テキストp19～p24を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞前回と同じく、音名と長さを必ず覚える(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法①春の歌発表。夏の歌。 ＜事前学習＞春の歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞夏の歌を歌えるように練習する。(1時間)
5 これまでのまとめ・発声練習「秋の歌」	全員	「楽典」＜学習内容＞今までの復習。小テスト形式。 ＜事前学習＞テキストp4～p24を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞プリントで間違った部分を必ず理解する(1時間) 「声楽」＜学習内容＞発声法②夏の歌発表。秋の歌。 ＜事前学習＞夏の歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞秋の歌を歌えるように練習する。(1時間)

6	音程・発声練習・「冬の歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞2音間の距離。8回目授業の説明。 ＜事前学習＞テキストp27を読んでおく。(1時間) ＜事後学習＞音名と長さの確認し、鍵盤と連動させる(1時間)</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法②発表会の準備、冬の歌。 ＜事前学習＞秋の歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞グループで発表会の準備をする。 冬の歌を歌えるように練習する。(2時間)</p>
7	発表会のためのグループワーク	全員	<p>「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞グループによる発表会の準備、練習をする。 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。(2時間) ＜事後学習＞グループで発表会の練習をする。(2時間)</p>
8	発表会	全員	<p>「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞発表会 ＜事前学習＞グループで発表会の準備をする。(2時間) ＜事後学習＞冬の歌を歌えるように練習する。(1時間)</p>
9	音階と調・子どもへの歌唱指導法	全員	<p>「楽典」 ＜学習内容＞曲の雰囲気などを決定する調性の説明。 ＜事前学習＞テキストp35～p42を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞日本語での音名を確認。(1時間)</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法③冬の歌発表、歌唱指導法。 ＜事前学習＞冬の歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞ハンドサインを入れた歌の練習をする。(1時間)</p>
10	和音・発声練習「行事の歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞音楽の色を決める和音の説明。 ＜事前学習＞テキストp43～p50を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。(1時間)</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法③ハンドサインを入れた歌の発表。行事の歌。 ＜事前学習＞ハンドサインを入れた歌の練習。(1時間) ＜事後学習＞行事の歌を歌えるように練習する。(1時間)</p>
11	コードネーム・発声練習「わらべ歌」	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞英語で和音を表記。 ＜事前学習＞p27.28とp51を読んでおく(1時間) ＜事後学習＞楽譜を見てその和音をピアノで弾く。(1時間)</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法④行事の歌発表。わらべ歌等。 ＜事前学習＞行事の歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。</p>
12	様々な表示法・手話を用いた歌や手遊び歌	全員	<p>「楽典」＜学習内容＞言葉で表記されているものを理解する。 ＜事前学習＞テキストp57～p61を暗記する(1時間) ＜事後学習＞p63をして、暗記する。(1時間)</p> <p>「声楽」＜学習内容＞発声法④わらべ歌発表。手遊び歌等。 ＜事前学習＞わらべ歌を歌えるように練習する。 ＜事後学習＞手遊び歌を歌えるように練習する。</p>
13	教員による公演鑑賞・楽典の復習	全員	<p>「楽典」「声楽」 ＜学習内容＞教員による公演を鑑賞する。 ＜事前学習＞今までのテキストを読み直す。手遊び歌を歌えるように練習する。(1時間) ＜事後学習＞今までのテキストを読み直す。歌唱表現について考える。手遊び歌を歌えるように練習する。(1時間)</p>

1 4	楽典の復習・発表会や身体表現の歌	全員	<p>「楽典」 <学習内容>今までの総復習をテスト形式で実施。 <事前学習>授業で使用したプリント等を全て確認 (1時間) <事後学習>間違ったところを理解する (1時間)</p> <p>「声楽」<学習内容>手遊び歌発表。発表会の歌等。 <事前学習>手遊び歌を歌えるように練習する。(1時間) <事後学習>発表会の歌等を歌えるように練習する。 (1時間)</p>
1 5	総まとめ・試験対策	全員	<p>「楽典」 <学習内容>今までの総復習をテスト形式で実施。 <事前学習>授業で使用したプリント等を全て確認 (1時間) <事後学習>間違ったところを理解する (1時間)</p> <p>「声楽」<学習内容>総復習、試験対策。 <事前学習>発表会の歌等を歌えるように練習する。 (1時間) <事後学習>試験曲を歌えるように練習する。(1時間)</p>
1 6	試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅱ	豊辻 晴香	1	前期	演習	選択	1
	担当形態	複数教員	ナンバリング		CE1224	
	担当教員	豊辻晴香、下村恭子、福田陽子、松岡礼子、水崎玄、淀川典子				
【キーワード】	【概要】					
1 ピアノ演奏	少人数のクラス編成で、各自のレベルに合わせマンツーマンのピアノ指導を行う。基礎となるスケール・カデンツをしっかりと学び、それらを応用したコードネームの和音で弾き歌いができるようにする。クラス内、又は全体で定期的に発表会を経験する事で、人前での演奏に慣れるとともに、様々な楽曲の知見を深める。					
2 弾き歌い						
3 読譜力						
4 スケール（音階）						
5 コードネーム						
【到達目標】						
1. 正しい読譜力や適切な運指法を身につけ、ピアノを演奏できる。						
2. ピアノを弾きながら歌う事ができる。						
3. 実践で必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を音楽的に表現し、子どもの前で演奏できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	授業態度	実技試験	課題	合計		
評価割合 (%)	20	50	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】（ルーブリック）						
評価項目	4	3	2	1		
演奏技術力	適切なテンポ・声量で、ほとんど間違えることなく弾き歌いできる。	適切なテンポでピアノ演奏するも、小さな声で歌う。	適切な声量で、自分なりのテンポで弾き歌いできる。	何度も弾き直しながら、最後まで弾き歌いできる。		
理解力	全てにおいて、正しい音と指使いでテンポよく演奏している。	全てにおいて、正しい音と指使いで丁寧に演奏している。	ある程度、正しい音と指使いでゆっくりと演奏している。	音や指使いを間違えつつ、何度も弾き直しながら最後まで演奏する。		
主体性	課題意識を持ち、計画的に日々の事前学習に取り組んでいる。	課題意識を持ちつつ、事前学習に取り組んでいる。	自分なりのペースで事前学習に取り組んでいる。	授業で課題に取り組んでいる。		
積極性	規定より多くの曲数をこなし、いつでも演奏することができる。	規定より、多くの曲数をこなしている。	規定よりわずかに多くの曲数をこなしている。	規定通りの曲数をこなしている。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実技試験の評価について、口頭もしくはコメントなどで伝える。		
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布		
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』 『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社		
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ」 「保育内容（音楽表現）」		
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。		
【備考】 保育士課程選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 入学前課題曲発表会 および オリエンテーション	各教員	＜学習内容＞入学前に配付された課題曲を演奏する。また、本授業の目的や進行等について理解する。 ＜事前学習＞発表会に向けて、練習に励む。（3時間） ＜事後学習＞発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）
2 ピアノ演奏の基礎①	各教員	＜学習内容＞ハ長調の音階とコードを学ぶ。そしてハ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
3 ピアノ演奏の基礎②	各教員	＜学習内容＞ト長調の音階とコードを学ぶ。そしてト長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
4 ピアノ演奏の基礎③	各教員	＜学習内容＞ニ長調の音階とコードを学ぶ。そしてニ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
5 ピアノ演奏の基礎④	各教員	＜学習内容＞ヘ長調の音階とコードを学ぶ。そしてヘ長調の楽曲を両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
6 園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い①	各教員	＜学習内容＞実践で必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）
7 園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い②	各教員	＜学習内容＞実践で必要な曲（生活の歌・季節の歌・行事の歌など）を、両手で弾き歌いする。 ＜事前学習＞決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） ＜事後学習＞不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）

8	全体発表会	各教員	<p><学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。</p> <p><事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
9	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い③	各教員	<p><学習内容>実践で必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
10	園生活の歌・季節の歌等の弾き歌い④	各教員	<p><学習内容>実践で必要な曲(生活の歌・季節の歌・行事の歌など)を、両手で弾き歌いする。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
11	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎①	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
12	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎②	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
13	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎③	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
14	ピアノ演奏・弾き歌いの基礎④	各教員	<p><学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方やピアノ演奏に取り組む。</p> <p><事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかりと行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
15	試験に向けての課題曲総仕上げ	各教員	<p><学習内容>これまでの合格曲の把握し、より音楽的に試験曲を演奏できるよう練習する。</p> <p><事前学習>発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
16	実技試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
教育実習指導	青沼 典子	1・2	通年	演習	選択	1	
	担当形態	オムニバス	ナンバリング		CE1225		
	担当教員	青沼典子（実務家）、谷川裕子					
【キーワード】	【概要】						
1 教育実習	教育実習は教育・保育を行う現場を直接体験することができる貴重な機会である。そのために実習においては何を観察し、何を学びとするのかを明確にすることでより充実した実習を行うことができるようになる。そこで本授業では教育実習を行うための事前指導として現場に出るための心構えを学び、保育の観察の仕方、子どもの遊びの展開と保育の構造化と指導計画の立案、具体的な指導方法の研究を学びとして、教育実習に求められる知識・技能・態度を具体的な演習形式で学ぶ。また実習後には実習を振り返り、学びを深める。						
2 幼稚園							
3 事前指導							
4 事後指導							
5 実習への心構え							
【到達目標】							
1. 教育実習の意義や目的が理解できる。							
2. 子ども理解と保育者としての援助の仕方を理解した日誌や指導案を作成することができる。							
3. 実習の総括を行い自己課題解決に向けて学習目標を持つことができる。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
【成績評価の方法】							
成績指標	取り組み姿勢			提出物		合計	
評価割合 (%)	30%			70%		100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【評価内容】 (ルーブリック)							
評価項目	4	3	2	1			
課題	課題を理解し、考え、まとめることができる	求められる課題を理解し、取り組むことができる。	課題を理解しようとする努力が見られる	課題に取り組む姿勢がみられる。			
提出	提出の期限を守り、提出物を整え、実習に繋げる	自ら書類などを整えて提出することができる。	コマかな指導を受けて書類の提出が出来る。	提出しようとする姿勢が見られる			
思考・理解	実習指導の内容を理解し、実習に繋げることが出来る	指導の内容を理解し、実習に取り組む気持ちを持つ	指導の内容を理解しようとする姿勢が見られる。	指導の内容を理解しようとしている。			

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
【教科書】 『実習の手引き』 純真短期大学こども学科 『幼稚園教育要領解説』 文科省フレーベル館		
【参考書・参考資料等】 適宜紹介		
【関連科目】 「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」		
【受講心得】 教育実習を前提とした科目であるため、特別な理由を除き欠席することなく参加すること。 欠席した場合は授業内容を担当教員に確認すること。		
【備考】 幼稚園教諭課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	【学習内容】 幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習の意義・目的を確認する。 【事前学習】 幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
2	実習における心構え・姿勢・作法	【学習内容】 実習において学びの明確な目標を持ち、保育者をめざす姿勢を具体的に学びます。 【事前学習】 実習手引き第3章を読んでおく。（0.5時間） 【事後学習】 学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。（0.5時間）
3	実習園の選定・概要および個人調書の記入方法について	【学習内容】 実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。 【事前学習】 自身の履歴を確認しておく。（1時間） 【事後学習】 書類の書き上げ（1時間）
4	観察記録の意義・視点について	【学習内容】 実習においての観察の際の視点とその記録方法について学びます。 【事前学習】 記録の仕方について調べておく。（1時間） 【事後学習】 学習内容を振り返り整理する。（1時間）
5	先輩から聞く実習について	【学習内容】 先輩や現場の先生から実習の意義や学びについて話を聞く 【事前学習】 実習に向けての疑問点などをまとめておく（1時間） 【事後学習】 実習に向けての留意点をまとめる。（0.5時間）
6	指導案の立案	【学習内容】 発達に応じた指導案を立案する 【事前学習】 発達に応じた子どもの姿を調べておく。（1時間） 【事後学習】 立案の見直し（0.5時間）

7	教育実習 I における評価	<p>【学習内容】教育実習 I における記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】学習内容を振り返り整理する。(0.5時間)</p>
8	教育実習 I の振り返り	<p>【学習内容】教育実習の振り返りを小グループで行い、意見をまとめ全体で発表する。</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】</p>
9	幼稚園教諭の資質と教育実習の意義・目的	<p>【学習内容】幼児教育の理論を理解し、幼稚園の役割、幼稚園教諭の役割を理解する。また教育実習 II の意義・目的を確認する。</p> <p>【事前学習】幼稚園教育要領第1章総則を読んでおく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】学習内容を振り返る、わからなかった語彙、内容を整理する。(0.5時間)</p>
10	実習園の選定・概要および個人調書の記入	<p>【学習内容】実習園に向けて情報収集の仕方と選定する方法を学び、実習園への書類作成をします。</p> <p>【事前学習】自身の履歴を確認しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】書類の書き上げ(1時間)</p>
11	指導案の立案(部分実習)と保育の展開	<p>【学習内容】教育実習 I における部分実習の指導を見直し、教育実習 II における実習時期に沿った指導案を立案する。</p> <p>【事前学習】発達時期に応じた子どもの姿を調べておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】立案の見直し(0.5時間)</p>
12	指導案の立案(1日実習)と保育の展開	<p>【学習内容】教育実習 I における指導案を見直し指導案を立案する</p> <p>【事前学習】発達に応じた子どもの姿を調べておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】立案の見直し(0.5時間)</p>
13	実習における諸注意	<p>【学習内容】教育実習 II における実習生としての態度や姿勢について、準備物の確認及び、学習目標を明確にする。</p> <p>【事前学習】教育実習 I の振り返り(0.5時間)</p> <p>【事後学習】学習内容の整理(1時間)</p>
14	教育実習 II における振り返り	<p>【学習内容】教育実習 I における記録と実習園からの評価に基づき、自己課題を見出す</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る(0.5時間)</p> <p>【事後学習】学習内容を振り返り整理する(0.5時間)</p>
15	教育実習 I および II のまとめ	<p>【学習内容】教育実習の振り返りを行います。</p> <p>【事前学習】教育実習日誌を振り返る(0.5時間)</p> <p>【事後学習】</p>

【実務家教員】

フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】</p> <p>幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】</p> <p>「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」 「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
教育原理	今村 裕	1	後期	講義	必修	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1202	
	担当教員	今村 裕				
【キーワード】	教えるということ・学ぶということ・成長するとは					
1 教育の概念	教育の基本的な概念、目標を知り、理論的側面である歴史的背景に基づく、「教育史、教育思想、教育理念」等を扱い、現代の教育に至る歴史的経緯や過程について学ぶ。また、現代の教育が抱える諸問題や実践例をめぐり、教育の意義と課題を認識し、背景にある社会状況について理解を深める。さらに、教育の目標を達成するための学校経営、学級経営、安全教育、危機管理といった「学校マネジメント」について実践例を基に学ぶ。そして、学校・家庭・地域の連携・協働による教育の新しい動向についても理解を深める。					
2 教育の歴史						
3 教育の思想						
4 学校安全への対応						
5 教育の新しい動向						
【到達目標】	1. 教育原理の包括的な理解について、理論的側面と実践的側面から説明できる。 2. 理論的側面に関しては、先人の教育観等を理解する活動を通して、教育の意義や在り方について説明できる。 3. 実践的側面に関しては、現代の教育が抱える諸問題や実践例をめぐり、背景にある社会状況及び教育の意義と課題を説明できる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験		確認テスト・受講態度			合計
評価割合 (%)	60		40			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	毎回、レポート提出を実施し、次回のはじめにフィードバックし学習内容の定着を図る。					
【教科書】	適宜、授業中に紹介。授業者作成「講義資料」を配布する。					
【参考書・参考資料等】	必要に応じて、授業者作成資料を提供する。					
【関連科目】	保育原理、保育者論、教育方法論					
【受講心得】	私語を慎み、講義のメモを取り、集中すること。					

【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 教育の基本的概念① ～教育とは何か～		【学習内容】オリエンテーションとして、全体の流れを確認し、授業に対する意欲を高める。教育とは何か。その意義と必要性、人間の発達段階と教育の在り方等について学ぶ。 【事前学習】シラバスを確認しておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
2 教育の基本的概念② ～教育の目的・目標～		【学習内容】何のための教育かを憲法、教育基本法、幼稚園指導要領、保育所保育指針から教育の目的や目標を抜き出し、子どもの発達段階におけるそれぞれの目標を整理し、理解を深める。 【事前学習】本時の内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
3 教育の基本的概念③ ～教育を成立させる要素～		【学習内容】子ども、家庭、地域、教員など教育を成り立たせている要因とその現状、課題について理解する。また、子どもの発達とその発達課題を基に、教育を成り立たせている要因の相互関係についても理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
4 教育の歴史① ～学校の意味と成り立ち～		【学習内容】教育が行われるようになった歴史的背景を理解し、学校ができてきた経緯と学校の意味について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
5 教育の歴史② ～日本の学校の歴史～		【学習内容】日本における学校の成り立ちから近代以前の学校教育制度を通して、日本の近代化と学校教育の歴史、戦後の教育改革について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
6 教育の歴史③ ～現代の教育課題～		【学習内容】教育の歴史を踏まえて、現代における教育課題を明確化する。特に、教育基本法改正の経緯やその内容について学習し、社会の変化と教育施策の動向について理解を深める。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
7 教育の思想① ～教育家の諸思想～		【学習内容】世界の幼児教育・学校教育に影響を与えた、コメニウスの直感教育、ルソーの自発学習、ペスタロッチの開発教授、フレーベルの自己活動の原理、デューイの児童中心主義について理解を深める。 【事前学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
8 教育の思想② ～日本における教育思想～		【学習内容】「教育方法の現代化」での初期の取り組みと教材プログラムの開発、「問題解決学習」「プログラム学習」「発見学習」など様々なアプローチが開発されてきたことを理解する。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）
9 学ぶことと教えること		【学習内容】学び手の主導権（イニシアティブ）が生きるシステムについて学習する。 【事前学習】本時の学習内容の確認をしておくこと。（0.5時間） 【事後学習】感想・意見レポート作成により定着を図る。（1時間）

10	学びつづけること		<p>【学習内容】 学びつづける方法・工夫について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
11	学習における個と個性		<p>【学習内容】 学習の歴史的現実について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
12	学ぶというもののプロセス		<p>【学習内容】 学ぶということと、教えられずに身につくこと共通点と差異について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
13	教えるという仕事		<p>【学習内容】 教えることを仕事にすることと、それが子供にとって有意義であることの意味について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
14	学ぶ人と教える人との出会い		<p>【学習内容】 人間ひとりの生について考える。「生」と「死」の間で行なわれること。その意義にうち得学ぶ。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
15	学ぶことと教えることの文化史		<p>【学習内容】 問答体の系譜をたどりながら、問答の意義と今日的教育問題を考える。</p> <p>【事前学習】 本時の学習内容の確認をしておくこと。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 感想・意見レポート作成により定着を図る。(1時間)</p>
16	定期試験		<p>15回の講義の内容と感想に書いたことを想起し、その中から問題を作成し、定期試験とする。</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
社会福祉	谷川 知士	1	後期	講義	必修	2
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1204	
	担当教員	谷川知士				
【キーワード】	【概要】					
1 高齢者福祉	本格的な少子高齢化を迎え、現代家族のあり方も大きく変容している。社会福祉分野のひとつでもある保育も、核家族化への変化のなかで家族全体を支援する社会的サービスとしてますます重要視されている。次世代を担う乳幼児とその家族を支援する保育士が、社会福祉的視点と知識について学び、より広い視野をもった援助者となることが期待されているため、この講義では、国内外の社会福祉の制度とサービスについて学び、社会福祉的視点を持つことを目的とする。					
2 障害児・者福祉						
3 こども家庭福祉						
4 公的扶助						
5 社会保障						
【到達目標】						
1. 現代社会の問題と社会福祉の関連について学ぶ。						
2. 社会福祉の諸分野と制度、サービスについて学ぶ。						
3. 社会福祉分野における保育士の役割、位置づけ、期待されていることについて学ぶ。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	授業態度等	課題レポート	試験	合計		
評価割合 (%)	20	20	60	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
毎回講義の要点をまとめた用紙を提出させ、コメントを付けて後日返却する。						
【教科書】						
『新 保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会福祉[新版]』 片山義弘・李木明德 編著 北大路書房						
【参考書・参考資料等】						
『保育士のための社会福祉』成清美治編著 学文社						
『保育士をめざす人の社会福祉』相澤讓治・杉山博昭編 未来出版						
『保育者のための社会福祉』小林育子著 萌文書林						
『子ども理解と保育実践 子どもを知る 自分を知る』塚本美知子他著 萌文書林						
【関連科目】						
「社会福祉」、「児童家庭福祉」、「子ども家庭支援論」、「保育実習（施設）」						

【受講心得】		
わたしたちの生活に「社会福祉」がどのようにかかわっているのか、自分の生活を振り返りながら「社会福祉とは何か」を授業を通して学んで行きましょう。		
【備考】		
卒業必修科目、保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション 本科目の位置づけ 学習の概要 第1章 現代社会と社会福祉の意義 1節 社会福祉の概念 2節 社会福祉の対象と福祉ニーズ		(1) 学習内容 ・社会福祉で学ぶ内容を把握し、私たちの生活に社会福祉が関わっていることを知る。 (2) 事前学習の内容 ・講義前にテキストの「はじめに」「目次」をよく読んでくること。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
2 第1章 現代社会と社会福祉の意義 3節 社会福祉のあゆみ ・欧米諸国 ・日本		(1) 学習内容 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について欧米の社会福祉の歴史の変遷より学ぶ。 ・日本の社会福祉の戦前から近年までのあゆみを学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p11～p21をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
3 第2章 社会福祉と子ども家庭福祉 1節 子ども家庭福祉の変遷		(1) 学習内容 ・戦後における児童福祉の流れを理解する。 ・社会福祉基礎構造改革の概要を学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p27～p32をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
4 第2章 社会福祉と子ども家庭福祉 2節 子どもの権利擁護 ・家庭支援と子ども家庭福祉		(1) 学習内容 ・子供の最善の利益と権利擁護について理解する。 ・経済社会と家庭支援の関係性について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p33～p42をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
5 第3章 社会福祉の制度と実施体系 1節 社会福祉の制度		(1) 学習内容 ・福祉六法の成り立ちと各種の法律の概要を学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p43～p49をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
6 第3章 社会福祉の制度と実施体系 2節 社会福祉サービス実施体制と公私の役割		(1) 学習内容 ・社会福祉制度における国や自治体の役割を学ぶ。 ・社会福祉を担う団体について理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書 p 50～p56をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)

7	第3章 社会福祉の制度と実施体系 3節 社会福祉の財政と費用負担	(1) 学習内容 ・国の財政負担と市民の負担について理解する。 ・ひとり親家庭の福祉の課題と支援について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p56～p58をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
8	第3章 社会福祉の制度と実施体系 4節 社会保障と関連制度	(1) 学習内容 ・社会保障と所得保障、医療保障の概念を理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p60をよく読んでおくこと。(30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
9	第4章 現代社会と相談援助の意義 1節 相談援助の意義と原則	(1) 学習内容 ・相談援助の必要性と体系について学ぶ。 ・バイステックの7原則について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p63～p69をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
10	第4章 現代社会と相談援助の意義 2節 相談援助の方法と技術 3節 社会福祉援助活動の動向	(1) 学習内容 ・低所得者と生活保護の現状及び支援体制について学ぶ。 ・その他の低所得者福祉サービスについて理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p70～p78をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
11	第5章 社会福祉の専門職・実施者 1節 社会福祉従事者の専門性と倫理	(1) 学習内容 ・社会福祉事業従事者について学ぶ。 ・他の専門職との連携について学ぶ (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p79～p91をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
12	第6章 我が国における社会福祉 1・2節 子ども家庭福祉・障害者福祉	(1) 学習内容 ・今後の少子高齢化における子育て支援について学ぶ。 ・虐待について学ぶ。 ・障害児、者福祉の概念と権利条約、法体系について学ぶ。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p91～p112をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
13	第6章 我が国における社会福祉 3節 介護保険制度について	(1) 学習内容 ・介護保険制度の概要について理解する。 (2) 事前学習の内容 ・講義前に教科書p112～p121をよく読んでおくこと。 (30分) (3) 事後学習の内容 ・本日の講義の要点をまとめ用紙に書き、事後学習に役立てる。(30分)

1 4	第6章 我が国における社会福祉 4節 地域福祉・ボランティアについて・ ソーシャルワークについて	<p>(1) 学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の現状と課題について学ぶ。 ・ボランティアの概念やソーシャルワークについて学ぶ。 <p>(2) 事前学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義前に教科書p122～p159をよく読んでおくこと。(30分) <p>(3) 事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
1 5	第7章 利用者保護制度 1節 措置制度・成年後見制度	<p>(1) 学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の権利擁護と成年後見制度について学ぶ。 <p>(2) 事前学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義前に教科書p162～p176をよく読んでおくこと。 ・今までに提示したプリントや資料をよく読んでおくこと。(30分) <p>(3) 事後学習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定の用紙に講義の要点をまとめ、疑問点を調べること。(30分)
1 6	試験	自分が書いたまとめ用紙(確認表)と教科書をしっかり復習しておくこと。

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
子ども家庭支援の心理学	鳥羽 大峻	1	後期	講義	選択	2	
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1207		
	担当教員	鳥羽 大峻					
【キーワード】	【概要】						
1 子ども	本授業で学ぶべきことは、「人との相互的な関わりと子どもの発達」「子どもの精神保健」「家庭の意義と機能・子育て家庭を取り巻く社会状況」である。生後から周囲の人と関わりながら人間が発達していく様子、発達と共に家庭の中でどのような楽しみや困り感が生まれるのかをまず理解する。そして、現代の子どもと家庭を取り巻く状況や、さまざまな事例の理解と支援の方法について学ぶ。						
2 生涯発達							
3 家庭支援							
4 家族システム							
5 心身の健康							
【到達目標】							
1. 人間の生涯発達を理解し、子どもの身体と心の健康について理解することができる。							
2. 現在の子どもと家庭を取り巻く状況について理解することができる。							
3. 配慮を必要とする家庭と支援の方法について理解し、検討することができる。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							○
【成績評価の方法】							
成績指標	定期試験	受講への取り組み	小テスト	合計			
評価割合 (%)	60	20	20	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】							
小テスト及び試験終了後には、試験の解説を行う。							
【教科書】							
『子ども家庭支援の心理学』本郷一夫・神谷哲司編著 建帛社							
【参考書・参考資料等】							
『子どもとかわる人のための心理学』 沼山 博・三浦主博編著 萌文書林							
【関連科目】							
「子どもの心理学」「子ども家庭支援論」「相談援助」							

【受講心得】		
積極的に新たな知識を得ようとする姿勢をもつこと。また、他の受講生を尊重し、グループワークにおいては、対話や傾聴の努力をすること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション	<p><学習内容>授業の進め方の説明と、子ども家庭支援の心理学の概要について説明する。</p> <p><事前学習>シラバスを読んでおく。(30分)</p> <p><事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
2	生涯発達／①乳児期	<p><学習内容>乳児期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第1章-1)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
3	生涯発達／②幼児期前半	<p><学習内容>幼児期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第1章-2)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
4	生涯発達／③幼児期後半～学童期	<p><学習内容>幼児期・学童期の発達及び家庭との関わりについて説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第1章-2,3)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業の内容をまとめ、復習する。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
5	生涯発達／④思春期～青年期～成人期～高齢期	<p><学習内容>思春期以降の発達および特徴について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第2～3章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
6	家族システム *小テスト	<p><学習内容>家族を1つのシステムとみなす考え方について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第4章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
7	事例検討	<p><学習内容>歪んだ家族システムが形成されている事例について考え、発表する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>家族支援の具体策について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
8	養育スタイルの形成過程と世代間伝達	<p><学習内容>養育スタイルの世代間連鎖について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第5章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>

9	子どもの身体と心の健康／①基本的な生活習慣 *小テスト		<p><学習内容>子どもの心身の健康について、基本的な生活習慣の観点から説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第10章-1)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
10	子どもの身体と心の健康／②心の健康		<p><学習内容>子どもの心身の健康について、精神疾患の観点から説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第11章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
11	障害のある子どもの理解と対応／①知的障害		<p><学習内容>知的障害について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第12章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
12	障害のある子どもの理解と対応／②発達障害		<p><学習内容>発達障害について説明する。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第12章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
13	多様な子育て家庭への支援 *小テスト		<p><学習内容>子育て家庭への支援について考える。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第8章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
14	配慮を必要とする家庭への支援		<p><学習内容>虐待や貧困などの配慮を必要とする家庭への支援について考える。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>事前に教科書(第9章)を読み、専門用語の意味を理解しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
15	まとめ		<p><学習内容>これまでの授業のまとめを行う。最後に感想を書いてもらう。</p> <p><事前学習>これまで配付されたプリントの内容を確認しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業で学習した内容をまとめ、理解を深める。疑問点があれば、次回授業で発表する。(1時間)</p>
16	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子ども理解の方法	高口 知浩	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1208	
	担当教員	高口 知浩				
【キーワード】	【概要】					
1 幼児理解	幼児理解においては、まず子どもとの関わりを持つことが重要です。この授業では多くの事例や映像資料を用いるとともに実際に幼稚園・保育所・地域子育て支援施設等を訪問し、子どもと触れ合いながら具体的に子どもの姿や保育者の関わりを理解していきます。また、幼児理解の持つ意義・意味について、幼児教育の充実、小学校教育との連続性、家庭支援などにとって重要であることを確実に学んでいきます。					
2 内面						
3 発達						
4 観察						
5 記録						
【到達目標】						
1. 子どもの心身の発達や生活・遊びにおいて子どもを理解するための基本的な考え方ができる 2. 子どもを理解するための具体的な内容を理解することができる 3. 子ども理解に基づく保育者の基本的な援助、態度を理解することができる						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	グループワーク、課題	受講態度	合計		
評価割合 (%)	50%	40%	10%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
定期試験結果：到達目標に到達していない場合は結果を開示し、個別に具体的課題を解説する。 授業中の小テスト・レポート：随時返却し解説する。						
【教科書】						
『幼児理解に基づいた評価』 文部科学省 チャイルド本社						
【参考書・参考資料等】						
『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館						
『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館						
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館						
【関連科目】						
「保育内容全般」「子どもの心理学」「実習および実習指導全般」						
【受講心得】						
学習内容を実習や保育現場で応用し、実践できるよう学んでください。毎回、授業内容や配布資料を整理しノートにまとめるなどして、日常の学習を大切にしてください。教科書を熟読してください。						

【備考】 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション、子どもを理解すること①		学習内容 オリエンテーション（授業概要、到達目標、受講の心得や評価など） 「子どもを理解することの意義」、「幼児教育の充実のための基本であること」などを理解する。 事前学習 教科書の2～4ページを読んでおく。（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
2 子どもを理解すること②		学習内容 前回に引き続き「子どもを理解することの意義」、「幼児教育の充実のための基本であること」などを理解する。 事前学習 教科書の5～11ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（1時間）
3 子どもの内面を知る① エピソードから子ども理解のために保育者に求められるもの		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ。事例をもとにレポートを記入後、グループで意見交換し発表して共有する。「保育者が子どもを理解するために必要な心構えやとるべき態度等、求められるものとはなにか」を理解する。 事前学習 教科書の14～17ページを読んでおく。（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
4 子どもの内面を知る② エピソードから子ども理解のために内面を知る重要性		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ。事例をもとにレポートを作成後、グループで意見交換し発表して共有する。「保育者になったつもりで子どもの内面を推察してみ、子ども理解に必要なこととはなにか」を理解する。 事前学習 教科書の18～23ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
5 子どもの内面を知る③ エピソードから子ども理解から保育を改善するとは		学習内容 子どもを理解するために行動や表情、言葉などから内面を読み取る方法を学ぶ。事例をもとにレポートを作成後、グループで意見交換し発表して共有する。「集団と個の成長を確かなものにするために保育者が行うべき保育の改善とはなにか」を理解する。 事前学習 教科書の24～27ページを読んでおく。（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
6 子どもの発達と観察・記録の方法①		学習内容 「観察とは」について学ぶ。保育の場で子どもを「観察する」際の保育者のとるべき態度、留意すべき点について学ぶ。 事前学習 教科書の30～43ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
7 子どもの発達と観察・記録の方法②		学習内容 「記録するとは」について学ぶ。記録をとることの意味、記録の書き方の実際などについて学ぶ。 事前学習 教科書の44～63ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（0.5時間）
8 子どもの発達と観察・記録の方法③ 記録のとり方のトレーニング		学習内容 子どもの発達を学び、子ども理解における発達過程を知ることの意義と弊害を考える。記録のとり方の練習をする。 事前学習 教科書の64～70ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（1時間）

9	事例から考える①（観察と記録の実際） 保育所の子どもの観察記録の実際		学習内容 近隣の保育所を訪問し一対一で子どもを観察する。子どもの持ち味や行動などの様子を記録する。 事前学習 観察記録の練習しておく。（0.5時間） 事後学習 観察した内容を整理し記録用紙に清書しておく。（1時間）
10	事例から考える②（観察と記録の実際） 保育所の子どもの観察記録のまとめ		学習内容 観察した子どもの記録をレポート用紙にまとめ、グループ内で意見交換し共有しつつ、代表の学生を決めてクラス全体に発表する準備を行う。 事前学習 前回に実施した保育所の子どもの観察記録を読んでおく。（0.5時間） 事後学習 グループ内で共有した記録を振り返る。（0.5時間）
11	事例から考える③（観察と記録の実際） 記録の発表と共有		学習内容 観察した子どもの記録をグループ内で評価しあったあと、代表の学生の記録をクラス全体に発表して、全員で共有する。 事前学習 グループ内で共有したレポートを参考にしながら、自身の保育所の子どもの観察記録を振り返る。（0.5時間） 事後学習 共有した代表者の観察記録を参考にしながら自身の観察記録を振り返る。（0.5時間）
12	五領域の視点から子どもを理解する 要録作成と小学校教育との連続性		学習内容 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の作成と小学校教育への連続性について学ぶ。要録作成に必要な五領域の視点を学ぶ。 事前学習 教科書の71～87ページを読んでおく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（1時間）
13	保護者対応の方法①（受容・傾聴・共感）		学習内容 家庭との連携における保育の記録の重要性 保護者への対応（受容・傾聴・共感）について学ぶ。 事前学習 教科書の70ページを読んでおく。（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（1時間）
14	保護者対応の方法②（事例から）		学習内容 家庭との連携における保育者の心構えを知る。保護者への対応の実際について事例から学ぶ。 事前学習 配布資料を読んでおく。（0.5時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを整理して要点をまとめる。（1時間）
15	子ども理解の方法の振り返りとまとめ		学習内容 1回から14回の授業内容を振り返り、要点をまとめる。 事前学習 今までのすべての内容についてノートや資料を整理し確認したうえで提出の準備を行っておく。（1時間） 事後学習 授業を振り返り、ノートや資料などを再度確認して熟読しておく。（1時間）
16	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの食と栄養Ⅱ	宅間 真佐代	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1301	
	担当教員	宅間 真佐代				
【キーワード】	【概要】					
1 離乳食	子どもたちが健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための基礎となる食育を基本から学ぶとともに食育のための環境、家庭や地域社会との連携等に関して理解を深める。また、家庭や児童福祉施設における食生活の現状や課題、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。					
2 間食						
3 幼児食						
4 食物アレルギー						
5 食育						
【到達目標】						
1. 母乳栄養・人工栄養及び支援について理解し実践できる。						
2. 乳児期・幼児期の摂食機能の発達と離乳の方法及び支援について理解し実践できる。						
3. 食育の意義・目的、基本的考え方、内容について理解し実践できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	レポート・提出物		授業（演習）態度等			合計
評価割合（%）	85		15			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
レポート作成後、解説を行う。						
【教科書】						
『子どもの食と栄養』 高内正子監修 保育出版社						
【参考書・参考資料等】						
参考書：『子どもの食と栄養』 岡崎光子編著 光生館						
参考資料：『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』、『保育所における食事提供のガイドライン』						
【関連科目】						
『子どもと保健』『乳児保育』等						
【受講心得】						
遅刻、欠席をしない。積極的な学習及び態度で臨む。理論と実習を通して、子どもの食と栄養についての理解を深めて欲しい。						

【備考】		
保育士必修科目		
理解度に応じて学習内容の変更を行う場合がある。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>調乳について説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
2 子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>調乳についての説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
3 子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>離乳についての説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
4 子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>離乳についての説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
5 子どもの発育・発達と食生活		<p><学習内容>間食についての説明及び演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
6 特別な配慮を要する子どもの食と栄養		<p><学習内容>特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
7 家庭や児童福祉施設における食事と栄養		<p><学習内容>食事と栄養について演習を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
8 食育の内容と基本		<p><学習内容>食育の意義、食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携について説明する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（1時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を復習し解らないことは教科書及び参考書などで調べる。（1時間）</p> <p>自学により理解できない場合は質問をし解決する。</p>
9 食育の内容と基本		<p><学習内容>食育の視点から給食を考える（演習）。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>

1 0	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の視点から給食を考える（演習）。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
1 1	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の媒体を作成する。。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
1 2	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の媒体を作成する。。</p> <p><事前学習>授業の前には必ず教科書を一読し内容の確認を行う。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
1 3	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の媒体を作成する。。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
1 4	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の媒体を作成する。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>
1 5	食育の内容と基本	<p><学習内容>食育の内容と計画及び評価を行う。</p> <p><事前学習>授業の前には教科書を一読する。（0.5時間）</p> <p><事後学習>授業中の内容を振り返りレポート作成を行い理解を深める。</p> <p>解らないことは教科書及び参考書などで調べる。</p> <p>理解できない場合は質問をし解決する。（1.5時間）</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育・教育課程論	飯塚 恭一郎	1	後期	演習	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1211	
	担当教員	飯塚 恭一郎 (実務家)				
【キーワード】	【概要】					
1 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に準拠しながら、保育・教育コンセプトとしての「教育課程・全体的な計画」と実際の保育の計画・設計図としての「指導計画」のそれぞれが明示する内容とその役割を理解する。 「発達」と「保育内容」を縦横の軸にする教育課程と全体的な計画の基本構造がわかる。 短期指導計画としての部分保育指導案の立案、記述の演習を通して「保育の構造化」の考え方を学んでいく。 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を捉えるための子どもの育ちの「評価」と計画の再編成の必要性を理解する。 					
2 全体的な計画						
3 指導計画						
4 指導案						
5 PDCAサイクル						
【到達目標】						
1. 教育課程・全体的な計画の示すものと指導計画が示すものについて説明することができる。 2. 乳幼児の生活や遊び、発達の実態と教育課程・全体的な計画や指導計画がどう関連するのか説明できる。 3. 保育・教育課程を基に指導計画を立案し、保育の構造化を考えることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・演習	受講態度	合計		
評価割合 (%)	40%	35%	25%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。						
【教科書】						
毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館						
【参考書・参考資料等】						
『子どもの心によりそう保育・教育課程論』 鈴木昌世・佐藤哲也編著 (福村出版)						
【関連科目】						
「保育原理」「保育内容総論」						
【受講心得】						
他の学生と講師に迷惑と不快を及ぼし授業進行を妨げる「私語」や「不遜な受講態度」は控えること。						
【備考】						
幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修						

【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス		<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（3時間）</p>
2	教育課程・全体的な計画と指導計画		<p>【学習内容】 保育・教育コンセプトとしての「教育課程・全体的な計画」と実際の保育の計画・設計図としての「指導計画」のそれぞれが表している内容の違いと役割を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第3～4節など、教育課程・全体的な計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し、内容を熟読する。（3時間）</p>
3	長期・中期指導計画とは		<p>【学習内容】 各保育施設で編成されている長期あるいは中期の指導計画のサンプルをもとに、それぞれの指導計画が表している事柄やねらいを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節など、長期・中期の指導計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し、とりわけ長期・中期計画において重要な「発達の道筋」の軸に着目して内容を熟読する。（3時間）</p>
4	短期指導計画とは		<p>【学習内容】 各保育施設で編成されている短期指導計画のサンプルをもとに、指導計画が表している事柄やねらいを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節など、短期の指導計画について説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理し、とりわけ「保育のねらい」や「環境構成」など短期指導計画になるにつれ明確になってくる要素に着目して内容を熟読する。（3時間）</p>
5	教育課程・全体的な計画の横軸としての「発達」		<p>【学習内容】 教育課程・全体的な計画の横軸として「発達」「子どもの育ちの道筋」があり、保育の計画の重要な基本構造を成していることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『保育所保育指針解説』第1章3など、指導計画が子どもの発達の理解に根ざすことが説明されている箇所をあらかじめ目を通しておく。（1時間）</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理する。発達の道筋については他授業の同様の資料とも併せて内容を再読し理解を深める。（3時間）</p>

6	教育課程・全体的な計画の縦軸としての「保育内容」	<p>【学習内容】 教育課程・全体的な計画の縦軸として「保育内容」があり、保育の計画の重要なもうひとつの基本構造を成していることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第2章など、保育内容5領域について説明されている箇所にあらかじめ目を通しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内の解説を追加記入した配布プリント資料を整理する。保育内容5領域については他授業の同様の資料とも併せて内容を再読し理解を深める。(3時間)</p>
7	6年間の全体的な計画を模擬的に編成する① －専用演習シートによる編成－	<p>【学習内容】 「発達」と「保育内容」を縦横の軸にしたパズル状の「模擬編成シート」を使い、複数人で相談しながら全体的な計画を模擬的に編成する演習に取り組む。</p> <p>【事前学習】 これまで配布したプリント資料を再度読み返し、「発達」と「保育内容」の縦横の軸によって表している内容を押さえなおす。(1時間)</p> <p>【事後学習】 子どもの発達の姿とその時期にふさわしい保育内容がイメージできなかった箇所がなかったかなど、「模擬編成シート」演習を振り返っておく。(3時間)</p>
8	6年間の全体的な計画を模擬的に編成する② －模擬編成シートの正解と解説－	<p>【学習内容】 前回授業で取り組んだパズル状の「模擬編成シート」の正解回答とその解説を聞き、子どもの発達の道筋と保育内容の関係について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 保育内容5領域を扱った他授業の資料等を活用し、保育内容と発達の道筋がどのように関連づけられているか見直してみる。(1時間)</p> <p>【事後学習】 「模擬編成シート」の正解と解説を元に、全体的な計画に描かれている子どもの姿のイメージとして、自分の理解がずれていたり勘違いしているところは何だったか入念に振り返り確認しておく。(3時間)</p>
9	保育の実際と流れ －模擬保育観察から捉える－	<p>【学習内容】 短期指導計画としての「部分指導案」の記述演習することを前提に、教員が保育者となって展開する模擬保育を実習生の立場で観察し、その保育記録を録る。</p> <p>【事前学習】 授業の中で配布した「部分指導案」サンプルを読み返しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 保育記録を模擬保育展開中に記録が追いつかなかった部分がないか確認し、記憶をたどって記録の補足記述をする。(3時間)</p>
10	部分指導案記述を試みる① －子どもの姿の予想(1)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した保育記録を元に、この保育展開をそのまま部分保育として「再現」という想定で、指導案の「予想される子どもの姿」の欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 再度、前回授業で記述した保育記録を読み直し、補足情報があれば書き込み、指導案記述の情報としての精度を上げておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料を読み直し、保育の流れを「枠」「ブロック」で捉え、大項目と小項目で記述するといった記述のポイント・コツの理解に努める。(3時間)</p>

1 1	部分指導案記述を試みる② －子どもの姿の予想(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した指導案の「予想される子どもの姿」欄の記述サンプルと解説をもとに「予想される子どもの姿」欄記述方法の理解を深める。</p> <p>【事前学習】 自分が記述した「予想される子どもの姿」欄を見直し、記述のポイント・コツに沿って書かれているかチェックしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で紹介された記述サンプルと解説をもとに自分の記述内容と比較し、理解の間違いや文章表現力不足が見える部分等を入念にチェックする。(3時間)</p>
1 2	部分指導案記述を試みる③ －保育者の援助と配慮(1)－	<p>【学習内容】 模擬保育の記録を元に、この保育展開をそのまま部分保育として「再現」という想定で、指導案の「保育者の援助と配慮」欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 模擬保育の記録を、実際に自分が保育者として保育を展開する前提で読み直し、保育者が何をしていたかを思い出しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料を読み直し、「予想される子どもの姿」欄同様、保育者の動きを「枠」「ブロック」で捉え、大項目と小項目で記述するといった記述のポイント・コツの理解に努める。(3時間)</p>
1 3	部分指導案記述を試みる④ －保育者の援助と配慮(2)－	<p>【学習内容】 前回の授業で記述した指導案の「保育者の援助と配慮」欄の記述サンプルと解説をもとに「保育者の援助と配慮」欄記述方法の理解を深める。</p> <p>【事前学習】 自分が記述した「保育者の援助と配慮」欄を見直し、記述のポイント・コツに沿って書かれているかチェックしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 授業内で紹介された記述サンプルと解説をもとに自分の記述内容と比較し、理解の間違いや文章表現力不足が見える部分等を入念にチェックする。(3時間)</p>
1 4	部分指導案記述を試みる⑤ －環境構成の考え方－	<p>【学習内容】 「環境構成」欄に記述すべきことを知り、その種類に沿って模擬保育記録をもとにして「環境構成」欄の記述に取り組む。</p> <p>【事前学習】 他授業の資料等を活用し、環境を構成する種類には何があるか、あらかじめ確認しておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 環境を構成する種類と、その要素を「環境構成」欄に記述するポイントを、配布プリント資料と自分が記述した指導案と併せて整理し、理解に努める。(3時間)</p>
1 5	育ちの評価と教育課程等の改善 ／授業のまとめ	<p>【学習内容】 子どもの育ちの評価をもとに、教育課程や指導計画はPDCAサイクルに乗せて改善を図っていかなければならないことを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第6節など、教育課程の改善について触れている箇所あらかじめ目を通してしておく。(1時間)</p> <p>【事後学習】 他授業で触れている「子どもの育ちの評価」の説明等とも併せて、教育課程等の改善のPDCAサイクルについて理解を深める。(3時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

【実務家教員】

フリガナ	イイヅカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p>		
<p>【実務経験を生かした授業科目】 「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、 「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育内容総論	高口 知浩	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1212	
	担当教員	高口 知浩				
【キーワード】	【概要】					
1 保育内容5領域	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領や保育所保育指針をもとに、保育・幼児教育において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、各領域のねらいや内容について理解を深める。 保育事例のエピソードやビデオ教材等を活用して子どもの「生活」と「遊び」における学びを保育内容5領域を視点に分析、考察を行い、保育内容の総合的な理解を深める。 保育のねらいを達成するための保育内容と環境構成をグループワークで立案し保育を構造化する演習を行う。 					
2 資質・能力						
3 10の姿						
4 生活						
5 遊び						
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 保育・幼児教育において育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について説明できる。 保育による子どもの「学び」を保育内容5領域をもとに説明することができる。 ねらいを達成するための保育内容と環境構成を立案し保育を構造化することができる。 					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	課題・グループワーク	受講態度	合計		
評価割合 (%)	50%	40%	10%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	授業内の課題や演習については授業内で説明、講評をする。試験については模範解答を提示する。					
【教科書】	毎回プリント資料教材を配布 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他 フレーベル館					
【参考書・参考資料等】	『保育内容総論』 渡邊英則・大豆生田啓編著 ミネルヴァ書房					
【関連科目】	「保育原理」「保育者論」「保育・教育基礎研究Ⅱ」 そのほか保育内容に関わる科目					
【受講心得】	受講する学生間でコミュニケーションをとりながら積極的に演習に取り組んでください。					

【備考】 幼稚園教諭免許必修 保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	授業ガイダンス／5領域の視点について	<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して本授業の概要と目標について理解を深める。（0.5時間）</p>
2	幼児期に求められるもの① 「育みたい資質・能力」	<p>【学習内容】 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに、幼児教育において育みたい資質・能力について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当部分を読んでおく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布された資料をもとに復習を行う。（0.5時間）</p>
3	幼児期に求められるもの② 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」	<p>【学習内容】 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿について理解を深める。</p> <p>【事前学習】 保育所保育指針・幼稚園教育要領の該当部分を読んでおく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布された資料をもとに復習を行う。（0.5時間）</p>
4	保育内容5領域の視点から観る① 「幼稚園の1日」	<p>【学習内容】 映像教材をもとに、幼稚園での生活の流れを把握し、5領域の視点で子どもの学びを分析する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領を読み、保育内容の5領域について理解する。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 身近な幼稚園のHPから一日の流れを把握し、授業内容と照らし合わせ復習を行う。（0.5時間）</p>
5	保育内容5領域の視点から観る② 「保育所の1日」	<p>【学習内容】 映像教材をもとに、保育所での生活の流れを把握し、5領域の視点で子どもの学びを分析する。</p> <p>【事前学習】 保育所保育指針を読み、保育内容の5領域について理解する。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 実習先のHPから一日の流れを把握し、授業内容と照らし合わせ復習を行う。</p>
6	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較① 「養護と教育」	<p>【学習内容】 「養護と教育」という視点から、幼稚園教育要領と保育所保育指針についてディスカッションを行い、それぞれの特徴を把握する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領と保育所保育指針の該当部分についてあらかじめ目を通しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 配布された資料をもとに復習を行い、説明内容の理解に努める。（0.5時間）</p>

7	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較② 「ねらいと内容」	<p>【学習内容】 「ねらいと内容」という視点から、幼稚園教育要領と保育所保育指針についてディスカッションを行い、それぞれの特徴を把握する。</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領と保育所保育指針の該当部分についてあらかじめ目を通しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布された資料をもとに復習を行い、説明内容の理解に努める。(0.5時間)</p>
8	遊びの展開と子どもの学びについて	<p>【学習内容】 子どもの遊びに関する事例をもとに、保育者の援助や子どもの学びについてディスカッションを行う。</p> <p>【事前学習】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を再度確認する(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 配布資料をもとに子どもの遊びや遊びの中での学びについて整理する。(0.5時間)</p>
9	0～2歳児の保育内容と演習①	<p>【学習内容】 各年齢の発達や保育内容について確認する。また、グループに分かれ、年齢に応じた保育内容を考え、実践に向けて練習に取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>
10	0～2歳児の保育内容と演習②	<p>【学習内容】 引き続きグループに分かれ、年齢に応じた保育内容を考え、実践に向けて取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>
11	0～2歳児の保育内容と演習③	<p>【学習内容】 グループごとに考えた保育について発表を行う。他グループの発表を見ての学びをレポートにまとめる。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 発表をしての振り返りや他グループの発表を見ての学びについて復習する。(0.5時間)</p>
12	3～5歳の保育内容と演習①	<p>【学習内容】 各年齢の発達や保育内容について確認する。また、グループに分かれ、年齢に応じた保育内容を考え、実践に向けて練習に取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>

1 3	3～5歳の保育内容と演習②		<p>【学習内容】 引き続きグループに分かれ、年齢に応じた保育内容を考え、実践に向けて取り組む。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 今回の進捗状況を振り返り、次回の作成作業の見通しを立てておく。(0.5時間)</p>
1 4	3～5歳児の保育内容と演習③		<p>【学習内容】 グループごとに考えた保育について発表を行う。他グループの発表を見ての学びをレポートにまとめる。</p> <p>【事前学習】 グループ内の役割分担に沿って自分の担当する作業について準備しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 発表をしての振り返りや他グループの発表を見ての学びについて復習する。(0.5時間)</p>
1 5	子どもの育ちと学びの評価 ／授業のまとめ		<p>【学習内容】 保育内容5領域と「10の姿」を指標とした、子どもの「育ちの評価」について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 『幼稚園教育要領解説』第1章第4節4の記述を中心に「評価」について概観しておく。 (0.5時間)</p> <p>【事後学習】 『幼稚園教育要領解説』および配布プリント資料をもとに、子どもの学びの評価と保育内容5領域や10の姿がどのように関連しているのか理解を深める。(0.5時間)</p>
1 6	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
保育内容（造形表現）	篠原 利朗	1	後期	演習	選択	1	
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1302		
	担当教員	篠原 利朗					
【キーワード】	【概要】						
1 造形活動	造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、保育所・幼稚園の中で取り扱う教材を学習する中で、子どもの発達段階に応じた指導とその留意点について考察する。また、造形活動の具体的な保育指導案の作成及び模擬保育の実践を通して、保育を改善・向上しようとする力を身に付ける。						
2 発達段階							
3 模擬保育							
4 指導案							
5 情報機器							
【到達目標】							
1. 子どもの視点から造形的な表現を捉え、活動の準備、計画をすることができる。							
2. 造形活動の指導案を作成し、模擬保育を通して保育を見つめ直す視点を身に付けている。							
3. 造形活動における情報機器を活用する視点を身に付けている。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	レポート試験	受講態度	課題提出	合計			
評価割合（％）	20	20	60	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】							
課題提出後、コメントを返却するので確認して返答すること。							
【教科書】							
『コンパクト版・保育内容シリーズ 造形表現』（編）竹井史 一藝社							
【参考書・参考資料等】							
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）							
『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館）							
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府他（フレーベル館）							

【関連科目】		
「子どもと表現」「絵画・造形」		
【受講心得】		
意欲的に参加すること。		
【備考】		
幼稚園教諭、保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	幼稚園教育要領における造形表現のねらい及び内容	<学習内容>新しい教育・保育要領、保育指針と造形表現のねらいと内容を解説する。 <事前学習>事前に15回分の講義要項（シラバス）に目を通しておく。（0.5時間） <事後学習>教育要領についてまとめておく。（0.5時間）
2	紙を用いた造形表現の題材と指導について（1）	<学習内容>様々な種類の紙を用いた造形活動について解説する。 <事前学習>紙の種類について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
3	紙を用いた造形表現の題材と指導について（2）	<学習内容>様々な種類の紙を用いた造形活動について解説する。 <事前学習>紙の加工法について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
4	版画の題材と指導について（1）	<学習内容>厚紙を活用した版作りと指導の留意点について解説する。 <事前学習>版画の種類について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
5	版画の題材と指導について（2）	<学習内容>厚紙で作る凸版による印刷の技法について説明する。版画インクによる墨版印刷およびクレパスを用いたカラー印刷を行う。 <事前学習>材料や題材について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
6	ローラー遊びによる表現と指導について（1）	<学習内容>ローラー遊びの道具・材料及び指導の留意点について解説する。 <事前学習>ローラー遊びの道具・材料について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
7	ローラー遊びによる表現と指導について（2）	<学習内容>ローラー遊びによる色紙作り指導の留意点について解説する。 <事前学習>色紙作りの方法について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）
8	色紙を用いた絵文字制作による教室環境整備について	<学習内容>色紙を用いた絵文字（ピクトグラム）制作について解説する。 <事前学習>絵文字（ピクトグラム）について調べておく。（0.5時間） <事後学習>授業内容を記録し、振り返る。（1時間）

9	発達段階に応じた粘土遊びについて	<p><学習内容>粘土の特性を活かした題材の指導方法、また、粘土の種類について解説する。</p> <p><事前学習>粘土の種類について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
10	保育実践例から見る情報機器の活用について	<p><学習内容>造形あそびにおける情報機器及び教材の活用について解説する。</p> <p><事前学習>情報機器について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
11	模擬保育と留意点について	<p><学習内容>模擬保育(造形表現設定保育)について解説する。</p> <p><事前学習>模擬保育について調べておく。(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内容を記録し、振り返る。(1時間)</p>
12	保育指導案作成について	<p><学習内容>模擬保育題材決定と保育指導案作成について解説する。</p> <p><事前学習>造形活動の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を進める。(1時間)</p>
13	模擬保育 (描画の題材から指導案実践)	<p><学習内容>「描く活動」「絵あそび」の指導案実践及び検討会を行う。</p> <p><事前学習>「描く活動」の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。(1時間)</p>
14	模擬保育 (立体・工作の題材から指導案実践)	<p><学習内容>「工作活動」「製作遊び」の指導案実践及び検討会を行う。</p> <p><事前学習>「製作遊び」の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。(1時間)</p>
15	模擬保育 (造形遊びの題材から指導案実践)	<p><学習内容>「造形あそび」の指導案実践及び検討会を行う。<事前学習>「造形あそび」の題材について調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>指導案を手直ししておく。(1時間)</p>
16	試験	<p>授業で扱った題材について試験で問う。また、子どもの描画の発達段階及び道具や技法について問う。</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもと健康	谷川 裕子	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独	ナンバリング		CE1213	
	担当教員	谷川 裕子				
【キーワード】	【概要】					
1 領域	幼児期の運動は、体を動かす楽しさや心地よさを体感することが大切です。そのためには自ら体を動かす環境が必要となります。しかし近年の子どもを取り巻く生活環境が体を動かす機会を減少させている。本授業では子どもが運動できる環境への課題解決に向けて、様々な要素（人・もの・社会）がどのように関わるべきかを学びます。そのためにはまず、保育者としての身体活動を促せる自身の体験を持つての、身体活動の意義について理解する。					
2 健康						
3 発育発達						
4 運動遊び						
5 多様な動き						
【到達目標】						
1. 自らの身体をコントロールできるようになり、動きを体得する。 2. 子どもの生活と遊びを豊かに展開するための知識や技術を習得できる。 3. 他者と共感しながら、協働的に動けるようになる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	実践力	課題提出	取り組む姿勢	合計		
評価割合 (%)	55%	30%	15%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
提出された課題において、返却をもって授業時に行う。						
【教科書】						
『すこやかな子どもの心と体を育む 運動遊び』井上勝子他 建帛社						
【参考書・参考資料等】						
『新訂 豊かな感性を育む表現遊び』井上勝子他 ぎょうせい						
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）						
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）						
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府他（フレーベル館）						
【関連科目】						
「保育内容（健康）」						

【受講心得】		
【備考】		
幼稚園教諭免許必修，保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 幼稚園教育における領域「健康」		本授業の到達目標の確認と、全体の授業内容を伝達する。保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。 事前学習：指定された教科書を用意する（30分） 事後学習：課題を行う（30分）
2 保育所保育指針における領域「健康」		保育内容「健康」のねらいと内容について解説を行う。 事前学習：保育所保育指針を読んでおく（30分） 事後学習：課題を行う（30分）
3 基本的な動き（歩く・走る・跳ぶ・まわる）		人の動き（生活行動）を再確認する、また発育発達を促す動きについて知る。 事前学習：テキストP10～P13を読んでおく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
4 基本的な動き（複合的な動き）		身体活動としての動きを学ぶ。 事前学習：テキストP1～P6を読んでおく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
5 基本的な動き（人と関り動く）		複数人で遊ぶ遊びを体験。 事前学習：テキストP18～P22を読んでおく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（1時間）
6 ルールのある遊び		発達段階に合わせたルール遊びを学ぶ。 事前学習：テキストP39～P45を読んでおく（30分） 事後学習：課題実技の練習（30分）
7 物を使っての遊び（小型遊具）		様々な素材・道具を通して身体活動へ展開する方法を学ぶ。 事前学習：テキストP57～P81を見ておく（30分） 事後学習：課題実技を練習（30分）
8 物を使っての遊び（大型遊具）		大型遊具の使い方と安全方法を学ぶ。 事前学習：テキストP82～107を見ておく（30分） 事後学習：課題実技の練習（30分）

9	物を使つての遊び（見立て遊び）		物を見立てて遊ぶ展開方法を学ぶ。 事前学習：見立てて遊べそうな素材を探す（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
10	ごっこ遊び		身体表現遊びを学ぶ。 事前学習：子どもの創造力について調べておく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
11	生活事象から動きを見つける		イメージしたものを身体活動に変える展開を学ぶ。 事前学習：保育におけるイベントを調べておく（30分） 事後学習：課題実技の練習（30分）
12	リズムダンス（基本的な動き）		模倣動作を体操やリズムダンスを通して学ぶ。 事前学習：幼児期の模倣について調べておく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
13	リズムダンス（創作）		ダンスや体操を創作する。 事前学習：ダンスや体操の情報を集めておく（1時間） 事後学習：課題実技の練習（30分）
14	リズムダンス（発表）		みんなの前で創作体操やダンスを発表する。 事前学習：創作したものを練習する（1時間） 事後学習：創作の課題を記述する（30分）
15	まとめ		到達目標の確認、学びの総復習。 事前学習：全授業の課題を見出す（30分） 事後学習：学習内容の振り返り（30分）

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
乳児保育 I	砥上 あゆみ	1	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1217	
	担当教員	砥上 あゆみ				
【キーワード】	【概要】					
1 養護	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の必要性について学び、保育者の役割について考えていく。 ・3歳未満児の発育、発達の基礎的な知識に基づいた保育内容、保育者のかかわりや援助について学ぶ。 ・乳児保育における計画・記録・評価とその意義や保護者、地域、自治体等との連携、協働についても知識を習得する。 					
2 教育						
3 発達過程						
4 遊び						
5 指導計画						
【到達目標】						
1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および乳児保育の役割と機能を理解できる。 2. 3歳未満児の発育と発達をふまえた保育内容、環境構成等を考えることができる。 3. 保護者、職員間、自治体等との連携・協働関係について説明することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	試験	課題提出	受講態度	合計		
評価割合 (%)	40%	30%	30%	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
提出された課題等については、返却を行い、授業内で要点を確認する。試験については、プリント等で解説を行う。						
【教科書】						
『資料でわかる乳児の保育新時代』乳児保育研究会編 ひとなる書房 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館						
【参考書・参考資料等】						
今井和子監修『育ちの理解と指導計画【改訂版】』小学館 無藤隆・大豆生田啓友編著『0.1.2歳児の子どもの姿ベースの指導計画』フレーベル館						
【関連科目】						
「子どもの心理学」「子どもの保健」						

【受講心得】		
専門職を目指すという心がまえをもち、積極的に授業に参加すること。 事前事後学習に取り組み、課題等は必ず提出し、内容理解に努めること		
【備考】		
保育士資格必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 乳児保育の歴史の変遷および役割と機能		授業概要や到達目標の説明を行う。また、乳児保育の歴史の変遷や理念にふれ、求められる役割や機能について考えていく。事前学習（0.5時間）シラバスを読み、わからない言葉は意味を調べておく。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
2 乳児保育の意義・目的と必要とされる社会的状況		保育所保育指針の改定にふれ、乳児保育の基本的事項や意義・目的について学ぶ。また、生涯発達からみた乳児の時期の特徴にふれ、保育士としてのかかわりの大切さを考える。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
3 0歳児の発達の特徴と保育（1）		0歳前半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
4 0歳児の発達の特徴と保育（2）		0歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
5 1歳児の発達の特徴と保育（1）		1歳前半の発達過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
6 1歳児の発達の特徴と保育（2）		1歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
7 2歳児の発達の特徴と保育（1）		2歳前半の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
8 2歳児の発達の特徴と保育（2）		2歳後半の発達の過程と特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書を熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を押さえておく。

9	3歳児の発達の特徴と保育		3歳児の発達の過程と発達の特徴を学び、この時期に保育で大切にしたいことの理解を深めていく。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
10	乳児保育の内容と方法（1）		乳児保育の内容や方法について、基本的生活を中心にみていく。1日の流れや衛生面や安全面に配慮された生活環境について理解を深める。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
11	乳児保育の内容と方法（2）		乳児保育の内容や方法について、子どもの発達に応じたあそびについて理解を深める。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
12	乳児保育の内容と方法（3）		子どもの発達をみる視点や子ども理解等、保育の実践の中で大切にしたいことについて考えていく。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
13	多様な場における乳児保育の現状と課題		多様な場における乳児保育の現状と課題について学ぶ。事前学習（0.5時間）課題について、調べておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
14	乳児保育における連携・協働		乳児保育において、職員間が連携する意義や保護者との連携の大切さ、また、自治体や地域ともどのような連携が必要とされているのかを考える。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
15	乳児保育における計画・記録・評価とその意義		乳児保育における計画・記録・評価の基本的事項を知り、保育の現場でどのような記録があり、活かされているのかを理解する。事前学習（0.5時間）教科書で熟読しておくこと。事後学習（1時間）授業内容を振り返り、要点を整理しておくこと。
16	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
子どもの健康と安全	楠野 雅子	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1304	
	担当教員	楠野 雅子				
【キーワード】	【概要】					
1 健康と保健環境	保健的観察点を踏まえた保育環境及び援助 保育における健康及び安全管理（衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理災害へ備え） 子供の体調不良に対する適切な対応 保育における感染症対策（感染症について・集団発生予防・感染症発症時と罹患後の対応） 保育に必要な保健的対応の基本的考えかた					
2 健康と安全管理						
3 一次救命処置						
4 感染症予防						
5 保健的対応						
【到達目標】						
1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解できる 2. 保育における衛生管理・事故防止・及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解できる 3. 子どもの体調不良に対する適切な対応と保育における感染症対策について、具体的に理解できる						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験	受講態度・実技	提出物	合計		
評価割合 (%)	80	10	10	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
課題レポートに対して、コメントを返却するので、確認し見直しておくこと。						
【教科書】						
『子どもの健康と保健』中根淳子・佐藤直子編著 北川好郎・濱口典子・森本恵美子著 ななみ書房						
【参考書・参考資料等】						
『保育所における感染症対策ガイドライン』『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省 『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（内閣府・文部科学省・厚生労働省）等 『実践保育学』帆足英一監修 日本小児医事出版 『子どもの保健・演習』同文書院 『子どもの保健・健康と安全』同文書院						
【関連科目】						
「子どもの保健」						

【受講心得】		
子どもの健康と安全について、保育現場で子どものいのちが守れるよう知識・技術の習得に努めること		
【備考】		
保育士課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助		<学習内容>子どもの健康と保育環境、保健的観点を踏まえた子どもの援助の仕方、健康診査、体調変化の際の個別対応 集団全体の健康及び安全管理 <事前学習>テキストを読んでおく（0.5時間） <事後学習>子どもの定期健康診断・健診について（1時間）
2 保育における健康及び安全管理（衛生管理）		<学習内容>①施設環境②屋内の衛生管理③屋外の衛生管理 <事前学習>テキストを読んでおく（0.5時間） <事後学習>手洗い・主な遊具の消毒・調乳室の衛生管理・状況に応じた消毒方法、嘔吐物の処理等（1時間）
3 事故防止及び安全管理		<学習内容>①子どもの事故の特徴 ②事故防止のための具体的な方法 ④事故後の精神的支援⑤安全対策 <事前学習>テキストを読んでおく（0.5時間） <事後学習>事故防止のための安全対策・事故災害の予防と対策（1時間）
4 危機管理、災害への備え		<学習内容>①保育における危機管理②保育における災害への備え③安全教育 <事前学習>テキストを読んでおく（1時間） <事後学習>保育における危機管理・災害への備え・安全教育（1時間）
5 子どもの体調不良に対する適切な対応		<学習内容>体調不良時の対応、薬の投与の仕方、病院受診時の対応 <事前学習>テキスト読んでおく（1時間） <事後学習>講義内容の復習。発熱時・けいれん・嘔吐時の対応。与薬の仕方・留意点。病院受診時の対応。（1時間）
6 子どもに起きやすい事故、応急手当		<学習内容>応急手当（圧迫止血、頭部外傷、熱傷、熱中症など） <事前学習>テキスト読んでおく（1時間） <事後学習>応急手当について復習（1時間）
7 一次救命処置（心配蘇生法・AED・気道異物除去）		<学習内容>一次救命処置（心肺蘇生法・AED・気道異物の除去） <事前学習>テキストに目を通しておく（1時間） <事後学習>一次救命処置（心肺蘇生法・AED・気道異物の除去）（1時間）
8 感染症対策		<学習内容>集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応 <事前学習>テキスト読んでおく（1時間） <事後学習>①出席停止期間の基準②感染症罹患後の対応③保護者及び自治体との連携、講義内容の復習（1時間）

9	保育における保健的対応 (基本的考え方)		<p><学習内容>①保健活動における保健的な視点 ②食事・排泄・睡眠時における保健的対応 ③外出時・保育行事における保健的対応 <事前学習>テキストを読んでおく(1時間) <事後学習>保育活動における保健的対応(1時間)</p>
10	保育における保健的対応 (3歳未満児への対応)		<p><学習内容>3歳未満児の養護の実際 <事前学習>テキストを読んでおく(1時間) <事後学習>講義内容の復習(1時間)</p>
11	個別的な配慮を要する子どもへの対応		<p><学習内容>慢性疾患、アレルギー疾患、先天性心疾患等をもつ子どもの養護 <事前学習>テキストを読んでおく(0.5時間) <事後学習>講義内容の復習(1時間)</p>
12	障害のある子どもへの対応		<p><学習内容>①障害をもつ子どもの保育や援助で留意すること ②医療的ケア児への対応 ③様々な障害のある子どもへの対応を理解 <事前学習>テキストに目を通しておく(0.5時間) <事後学習>学習内容(1時間)</p>
13	健康・安全の管理の実施体制 (職員間の連携・協働)		<p><学習内容>①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②保育における保育活動の計画及び評価 <事前学習>テキストを読んでおく(0.5時間) <事後学習>保健計画作成・保健だより(1時間)</p>
14	地域保健における自治体、家庭、地域の関連機関との連携		<p><学習内容>①母子保健・地域保健における自治体との連携 ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 <事前学習>テキストを読んでおく(0.5時間) <事後学習>保健活動における関係機関との連携(1時間)</p>
15	まとめ		<p><学習内容>子どもの健康・事故防止・安全管理、危機管理・災害への備え対応・保健的観点を踏まえた子どもの援助の仕方、健康診査、体調変化の際の個別対応 集団全体の健康及び安全の管理、地域の関係機関との連携 <事前学習>テキストを読んでおく(0.5時間) <事後学習>講義内容の復習(2時間)</p>
16	試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
保育実習 I (保育所)	豊辻 晴香	1	後期	実習	選択	2
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1218	
	担当教員	豊辻晴香、高口知浩、飯塚恭一郎				

【キーワード】	【概要】
1 保育所実習	保育現場での実習をとおして、保育や子どもの実際にふれ理解に努めるとともに、既習の知識や技術を踏まえながら保育に参加する。現場や養成校の指導担当者の指導・助言を仰ぎつつ子どもとかかわり、発達段階に沿った保育援助を体得する。保育の内容や環境を観察・記録し、その意図を具体的に理解する。そして、保育士に求められる態度を心がけながら、子どもの人権を尊重した保育を行う。
2 保育所	
3 子ども理解	
4 観察実習	
5 子どもの人権	

【到達目標】

1. 保育所における基本的な生活と遊びの概要を理解し、発達や心情理解をもとに子どもと関わることができる。
2. 実習体験と日誌記述による日々の振り返りから、保育士に求められる専門性獲得に気づくことができる。
3. 保育士の仕事内容を把握し、人的環境として子どもへの保育的働きかけと配慮ができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	○

【成績評価の方法】			
成績指標	実習評価	実習に対する取り組み	合計
評価割合 (%)	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている。	優れている。	適切である。	努力を要する。		
実習日誌	保育に対する考察が十分になされている。	指摘を受けた個所を改善しようと努力している。	毎日、丁寧に読みやすく書いている。	毎日提出している。		
態度・行動	自分自身の課題を見付け積極的に実習をする。	決められた課題に取り組み実習をする。	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする。	教員から多くの指導・助言を受けて実習をする。		

<p>【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 実習園の指示に従う。</p>
<p>【教科書】 『実習のてびき』 純真短期大学こども学科 及び各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』</p>
<p>【参考書・参考資料等】 『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『実践につながる新しい教育・保育実習』 大浦賢治・谷口征子著（ミネルヴァ書房） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）</p>
<p>【関連科目】 「保育実習指導Ⅰ（保育所）」 「保育実習Ⅱ」 「保育実習指導Ⅱ」</p>
<p>【受講心得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・専門職である保育士の資格取得に係る実習であることを認識し、意欲的に責任感をもって参加すること。 ・学びを深めるために、指導担当者の指導・助言を活かし、日々自己改善に努めること。
<p>【備考】 保育士資格必修</p>
<p>【学習項目】</p> <p>※原則10日間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。</p> <p>【実習内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育所の概要と1日の生活の流れを把握する。 ②子どもの発達に沿った遊びや保育内容の実際を、保育参加を通して体験する。 ③子どもの人権を尊重した、保育士の援助や養護的配慮を知る。 ④子どもの発達や安全面に配慮された保育環境を知り、その保育的意図を理解する。 ⑤実習日誌の記述を通して記録の取り方や保育を観る視点を学び、記録された事実から気付きや考察をまとめ、文章化する。 ⑥実習における保育実践について振り返り、反省会等で指導担当者からの指導、助言、評価を受け、改善を試みる。 <p>【事前学習】（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） ・前日の実習内容の振り返りをもとに、本日の実習課題を明確にする。 <p>【事後学習】（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習中は、毎日の実習記録として日誌を記述し、本日の実習内容と学びの振り返りを行う。

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
幼児体育指導法	山本 龍介	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1305	
	担当教員	山本 龍介				
【キーワード】	【概要】					
1 運動あそび	乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努める。また、「幼児体育」の意義やねらい、内容・方法についての理解と修得をはかり、保育者として実践力を高める。保育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能を修得し、子どもの発達をふまえた運動遊びの援助・指導・安全管理を身につける。最終的には運動遊びに関する指導案を作成して、それを基に実践し、意見交換や相互評価を行う。指導、援助に必要な言葉かけやポイントについて、実践を通して考察・検討する。					
2 発達・発育						
3 動きの多様化						
4 動きの洗練化						
5 共感力 (コミュニケーション)						
【到達目標】						
1. 幼児期における身体運動に関する基本知識を理解できる。						
2. 乳幼児の身体や運動能力の発育・発達についての理解や課題の把握に努めながら、「幼児体育」の意義やねらい、内容・方法についての理解と修得をはかり、保育者として実践力を高めることができる。						
3. 幼児期運動指針の把握し実践できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	指導案の作成、実践	実技参加の積極性及び協調性	受講態度	合計		
評価割合 (%)	40	30	30	100		
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
※各保育実践終了後、作成した指導案に自己評価・反省を記入し提出。内容を評価し、コメントを付け返却。						
【教科書】						
資料等は必要に応じて配布します。						
【参考書・参考資料等】						
必要に応じてプリントを使用します。						
【関連科目】						
「子どもと健康」 「保育内容（健康）」						

【受講心得】

目的意識・課題意識をもって、集中した学習態度で臨むこと。意欲的、積極的な取り組みを評価します。
 体育着（運動のできる服装）を用意してください。
 子どもにたくさん接するため、ピアス、ネックレス、ブレスレット、指輪などアクセサリは外し、髪の毛の長い人は、髪の毛を結ぶようにしてください。

【備考】

【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション、幼児体育について	<p>〈事前学習〉 全15回の講義内容に目を通す（15分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション（授業の進め方、評価方法などの説明） ・リズム体操 1曲 ・簡単な運動あそびの実践 ・資料配布 運動の発達の特徴（3歳～6歳児） <p>〈事後学習〉 運動あそびの実践で行なったあそびについて指導のポイントや遊びのアレンジをノートにまとめる（30分）</p>
2	保育実践①（子どもの発達理解）	<p>〈事前学習〉 配布した資料や手持ちの参考書などを用いて、3・4・5歳児の発達発達について理解を深めておく（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真の園児と運動あそびの実践 ・子どもの発達、発育の理解を深める ・資料配布 幼児期における身体活動・運動の意義 <p>〈事後学習〉 実際に指導した子どもの様子や自己評価改善点をノートにまとめる（30分）</p>
3	現代社会における運動の意義と重要性	<p>〈事前学習〉 前回配布した資料の下読み。質問事項等をまとめる（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動あそびの意義 ※前回配布した資料を持参 ・リズム体操 1曲 ・共感あそびの実践 <p>〈事後学習〉 配布した資料に再度目を通す。実施した共感あそびの指導のポイントやアレンジをノートにまとめる。（60分）</p>
4	オリジナルリズム体操の作成	<p>〈事前学習〉 オリジナルリズム体操の選曲案（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズム体操 2曲 ・リレーあそびの実践 ・オリジナルリズム体操の作成（各グループ） <p>〈事後学習〉 実施したリレーあそびの指導ポイントやアレンジをノートにまとめる オリジナルリズム体操の復習（60分）</p>
5	リズム体操の発表 保育実践②に向けて模擬保育	<p>資料で確認</p> <p>〈事前学習〉 オリジナルリズム体操の復習 保育実践②に向けて年長児の発達・発育を手持ちの資料で確認（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループで作成したリズム体操の発表 ・保育実践②へ向けて簡易指導案の作成・模擬実施（各グループ） <p>〈事後学習〉 模擬実施による自己評価、改善を簡易指導案に記入（30分）</p>
6	保育実践②	<p>〈事前学習〉 保育実践②に向けて簡易指導案の再確認（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真より年長児12名来校 ・1グループ15分の保育実践 ・保育実践②終了後、自己評価。課題の見出し ・資料配布 脳と体を健全に育てる <p>〈事後学習〉 保育実践②について自己評価や課題をまとめる（30分）</p>
7	運動あそびの指導案作成	<p>〈事前学習〉 前回配布した資料に目を通し、質問事項等をまとめる（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践②を指導案に起こす ・指導案作成のポイント説明 ・作成した指導案の提出 ・運動あそびの実践（アレンジ） <p>〈事後学習〉 様々な運動あそびのアレンジを考えノートにまとめる（30分）</p>
8	幼児期運動指針の理解 手具を使ったあそびの指導法	<p>〈事前学習〉 ボール・縄・フープを使ったあそびの考案（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期運動指針の理解とポイントを把握 ・ボール、縄、フープを使った遊びの実践 ・資料配布 幼児の指導法・指導技術 <p>〈事後学習〉 配布した資料に目を通し、保育実践③に活かせるようにする（30分）</p>

9	保育実践③に向けて指導案の作成	<p>〈事前学習〉年中児の発達・発育を理解し、手具をつかったあそびの考案する</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児を対象とした手具を使ったあそびの指導案を作成 ・各グループ模擬保育を実施。評価、改善 <p>〈事後学習〉模擬保育を通して、作成した指導案の修正（30分）</p>
10	保育実践③（手具を使ったあそび）	<p>〈事前学習〉作成した指導案の再確認（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真 年中児来校 ・各グループ15分 実践 ・終了後、自己評価、他評価、改善点の見出し ・資料配布 魅力的な指導者になるために <p>〈事後学習〉保育実践③を通して、自己評価と改善策を指導案に記入（30分）</p>
11	器械運動の指導法・補助法	<p>〈事前学習〉事前に配布した資料に目を通し、質問事項等をまとめる（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マット、鉄棒、跳び箱、平均台の指導法と補助法 ・体育用具をつかったサーキットあそびの実践 <p>〈事後学習〉子どもに対しての補助法をノートにまとめる（60分）</p>
12	保育実践④に向けて指導案の作成（器械運動）	<p>〈事前学習〉年少児の発達・発育について理解を深め、体育用具を用いたサーキット遊びの考案（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年少児の運動あそび（サーキットあそび）の指導案作成 ・各グループ模擬保育を実施、評価、改善 <p>〈事後学習〉模擬保育をふまえ、指導案の修正や確認（30分）</p>
13	保育実践④（サーキットあそび）	<p>〈事前学習〉作成した指導案の確認と指導方法の再考（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属園 こどもの園純真 年少児来校 ・各グループ15分 実践 ・終了後、自己評価、他評価、改善点の見出し <p>〈事後学習〉保育実践④を通して、自己評価と改善点を指導案に記入（30分）</p>
14	安全管理上の配慮事項とケガへの対応	<p>〈事前学習〉手持ちの資料等を活用し、様々なケガへの対応方法を調べる（60分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動あそび中の事故によるケガへの対応法 ・幼児期の発達特性に応じた配慮事項 <p>〈事後学習〉慌てずケガの対応ができるように、配布した資料を再確認する（30分）</p>
15	まとめ	<p>〈事前学習〉過去14回の講義をふまえて、質問事項等をまとめておく（30分）</p> <p>〈学習内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案の返却と評価 ・総まとめ <p>〈事後学習〉授業内で使用した資料や自身が作成したノートなどを保育実習や現場に出て使用できるように、まとめる（60分）</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
保育・教育基礎研究Ⅱ	飯塚 恭一郎	1	後期	演習	選択	1	
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1222		
	担当教員	飯塚恭一郎（実務家）、青沼典子（実務家）、 岩見廣和、松尾俊治					
【キーワード】	【概要】						
1 実践	保育教育基礎研究Ⅰを基礎とし、個々の保育技術、技能を高めるため実践的な取り組みを行う。また、グループワーク演習を通して保育者の協同性を実地に学び、保育者の専門性、資質について考えを深め、高めていく。						
2 サービスラーニング							
3 企画							
4 指導案							
5 行事							
【到達目標】							
1. 保育・教育基礎研究Ⅰで習得した保育技術・技能を実践的な場で活用し、展開することが出来る。							
2. 協同的な活動に取り組み、保育者に求められる専門性について考えを深めることが出来る。							
3. 保育・教育基礎研究Ⅰ・Ⅱおよび関連科目を参考にし、年齢に応じた子どもの遊び・活動を立案することが出来る。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	受講態度		演習課題成果・提出物			合計	
評価割合（％）	25%		75%			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】							
グループワーク演習の終わり行う「振り返り」時に、担当教員から講評と学びのフィードバックを口頭で実施する。							
【教科書】							
各回の授業内容に沿った資料を別途プリントで配布する。							
【参考書・参考資料等】							
『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』							
【関連科目】							
幼稚園・保育所 関連科目全般							
【受講心得】							
遅刻、欠席はしない。共同での取り組みの時は人に迷惑をかけない。積極的に取組む。							
【備考】							

【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	保育教育指導法Ⅱの目的と内容 ー授業ガイダンスー		<p>【学習内容】 シラバスを元に授業の概要、目標、スケジュール、評価方法等の説明を受け授業の内容を知る。</p> <p>【事前学習】 事前にシラバスに目を通しておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 シラバスや授業内で配布されたプリント資料を参照して、本授業の概要と目標について理解を深める（0.5時間）</p>
2	コーナー遊び行事企画演習① ーグループピングと企画立案ー		<p>【学習内容】 サービスラーニングの内容や、意味について理解する。グループピングを実施し、コーナー遊びについて、準備、作り物、買い物等を、決まったグループで手分けをして行けるよう、企画準備を話し合う</p> <p>【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）</p>
3	コーナー遊び行事企画演習② ーコーナー遊び企画内容の制作と準備ー		<p>【学習内容】 あきまつり準備、作り物、買い物等を、決まったグループで手分けをして行う。</p> <p>【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）</p>
4	コーナー遊び行事企画演習③ ーコーナー遊び企画内容の制作と準備ー		<p>【学習内容】 あきまつり準備、作り物、買い物等を、決まったグループで手分けをして行う。</p> <p>【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）</p>
5	コーナー遊び行事企画演習④ ーコーナー遊び企画内容の制作と準備ー		<p>【学習内容】 あきまつり準備、作り物、買い物等を、決まったグループで手分けをして行う。</p> <p>【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）</p>
6	コーナー遊び行事企画演習⑤ ーコーナー遊び企画内容の仕上げと実施運営リハーサルー		<p>【学習内容】 あきまつりの担当コーナーを仕上げ、グループメンバーの役割分担等を決め、リハーサルを実施する。</p> <p>【事前学習】 どのような手順で進めるか、分担、等確認したり調べたりしておく。（0.5時間）</p> <p>【事後学習】 足りないもの、更に必要な物等を考え、提案できるように考えまとめておく。（0.5時間）</p>

7	じゅんしん・こどものあきまつり① ーコーナー遊び行事サービスラーニングー	<p>【学習内容】 こどもを招待し、学生企画のあきまつりを楽しんでもらう。学生は子どもに遊び方を教えたり、案内したり、かかわったりを実際に行い、子どもと触れ合い、子どもの姿を知る</p> <p>【事前学習】こどもたちへの説明やポイントをグループで打ち合わせしておく</p> <p>【事後学習】子どもの姿や、実際の反応などを記録しておく</p>
8	じゅんしん・こどものあきまつり② ーコーナー遊び行事サービスラーニングー	<p>【学習内容】 こどもを招待し、学生企画のあきまつりを楽しんでもらう。学生は子どもに遊び方を教えたり、案内したり、かかわったりを実際に行い、子どもと触れ合い、子どもの姿を知る</p> <p>【事前学習】こどもたちへの説明やポイントをグループで打ち合わせしておく</p> <p>【事後学習】子どもの姿や、実際の反応などを記録しておく</p>
9	あきまつりの振り返り 次回からの授業ガイダンス	<p>【学習内容】 グループごとに反省、振り返り、全体での振り返りや、参加者からの意見を聞き、サービスラーニングについて学習を深める。</p> <p>【事前学習】 自分の振り返りかえり、グループ、全体的な反省等発表出来るようにしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 全体での振り返りを今後につなぐまとめをレポートする。(0.5時間)</p>
10	保育内容の実践研究① ー園行事調べ学習グループワークのグループピングー	<p>【学習内容】 保育現場で伝承されている季節の行事についてグループワークとして調べ学習を行う。まずグループピングを実施し、担当する行事について話し合う。</p> <p>【事前学習】 行事について自分の意見が言えるように準備する。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループで決まった行事について詳しく調べる。(0.5時間)</p>
11	保育内容の実践研究② ー園行事調べ学習グループワークー	<p>【学習内容】 担当する季節の園行事について、図書館の文献やネット等を活用し、行事の由来やいわれ、縁起物などの行事にまつわる物、道具、食べ物などについて調べる。</p> <p>【事前学習】 行事について自分の意見が言えるように準備する。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 グループで決まった行事について詳しく調べる。(0.5時間)</p>
12	保育内容の実践研究③ ー園行事調べ学習グループワーク・発表原稿作成ー	<p>【学習内容】 担当する季節の園行事について調べた内容を、グループメンバーで役割分担して、発表用のスライド原稿にまとめていく。</p> <p>【事前学習】 どのようなデザインにするかななどあらかじめアイデアを練っておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 デザインの修正やアイデア追加などスライド画面の更新内容を考える。(0.5時間)</p>
13	保育内容の実践研究④ ー園行事調べ学習グループワーク・発表原稿仕上げと発表準備ー	<p>【学習内容】 メンバー各自が作成したスライド原稿をまとめて仕上げる。発表の準備と役割分担、口頭説明原稿の作成、リハーサル等に取り組む。</p> <p>【事前学習】 担当したスライド原稿の仕上げと確認をしておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 自分の発表口頭説明の原稿を仕上げ練習をしておく。(0.5時間)</p>

1 4	保育内容の実践研究④ －園行事調べ学習グループワーク発表会－	<p>【学習内容】 パワーポイントによるスライド発表をする。いろいろな行事について深く知る。自身が内容についてしっかり知り、子どもに伝えていける機会をイメージする。</p> <p>【事前学習】 グループの発表について再確認しておく。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 授業の振り返りを行い、行事についての内容や認識をまとめておく。(0.5時間)</p>
1 5	保育・教育基礎研究Ⅱの振り返り	<p>【学習内容】 基礎研究で学んだことを振り返り、現場に繋げていけるようにする。実習を控え、視聴覚教材を補助的に使ってイメージを持って現場に行けるようにする。</p> <p>【事前学習】 シラバスを見て基礎研究でやってきた学習内容を振り返る。(0.5時間)</p> <p>【事後学習】 基礎研究の学びを次年度へ生かせるようにまとめをする。(0.5時間)</p>

【実務家教員】

フリガナ	イイズカ キョウイチロウ	こども学科 准教授
氏 名	飯塚 恭一郎	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園における教諭や保育主任などの経験を活かし、それぞれの事例を基に、保育者の役割・仕事内容や子どもを取り巻く人間関係に関する授業や保育・教育課程に関する授業、実習指導等を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】 「保育原理」、「子どもと人間関係」、「保育内容（人間関係）」、「保育・教育課程論」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		
フリガナ	アオヌマ ノリコ	こども学科 教授
氏 名	青沼 典子	
実 務 経 験		
<p>【実務経験】 幼稚園教諭としての現場経験、また、主事職（教頭）として、幼稚園における実習生の指導経験、保育心理士や保育アドバイザーの資格を活かし、保育実践を想定した演習や絵本の読み聞かせ等、保育・教育者としての技術の習得、向上を目指した授業を行っている。</p> <p>【実務経験を生かした授業科目】 「子どもと言葉」、「保育内容（言葉）」、「教育実習指導」、「保育・教育基礎研究Ⅰ」、「保育・教育基礎研究Ⅱ」、「保育・教職実践演習」</p>		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
音楽表現Ⅲ	豊辻 晴香	1	後期	演習	選択	1
	担当形態	複数教員	ナンバリング		CE1306	
	担当教員	豊辻晴香、下村恭子、福田陽子、松岡礼子、水崎玄、淀川典子				

【キーワード】	【概要】
1 ピアノ演奏	個別ピアノレッスンを通して、これまでに培った演奏技術をさらに向上させる。特にピアノ楽曲（クラシック音楽、ポピュラー音楽、アニメ・映画音楽等）では、音楽表現豊かに演奏することを目指す。また、個別の弾き歌いだけでなく集団歌唱の伴奏も経験することで、保育・教育現場における指導実践力を身に付ける。
2 音楽的表現	
3 弾き歌い	
4 歌唱伴奏	
5 ピアノ楽曲	

【到達目標】
1. 既習した独奏や弾き歌いの技術をさらに深め、表現などを付けて、より音楽的に演奏できる。
2. 保育・教育の現場で求められる音楽の専門的知識と表現技術を習得することができる。
3. 集団歌唱においてピアノ伴奏をすることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	○

【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	○

【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	授業態度	発表会	課題	合計
評価割合 (%)	20	50	30	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
演奏技術力	適切なテンポ・声量で、ほぼ間違えることなく弾き歌いできる。	適切なテンポでピアノ演奏するも、小さな声で歌う。	適切な声量で、自分なりのテンポで弾き歌いできる。	何度も弾き直しながらも、最後まで弾き歌いできる。		
指導力	歌唱伴奏では、適切な声量で弾き歌い、子どもを意識して安定したテンポで伴奏できる。	歌唱伴奏では、小さな声量で弾き歌い、子どもを意識して安定したテンポで伴奏できる。	歌唱伴奏では、子どもを意識しつつ、自分なりに伴奏できる。	歌唱伴奏では、自分なりに最後まで伴奏できる。		
表現力	歌詞やメロディから曲の世界観をイメージし、高度な演奏を多用して音楽的に表現できる。	歌詞やメロディから曲の世界観をイメージし、いくつかの高度な演奏を用いて音楽的に表現できる。	歌詞やメロディから曲の世界観をイメージし、自分なりに丁寧に表現しながら演奏できる。	歌詞やメロディから曲の世界観をイメージしようと試みながら、自分なりに演奏できる。		
主体性	課題意識を持ち、計画的に日々の事前学習に取り組む。	課題意識を持ちつつ、事前学習に取り組む。	自分なりのペースで事前学習に取り組んでいる。	授業で課題に取り組んでいる。		

積極性	規定より多くの曲数をこなし、いつでも演奏することができる。	規定より、多くの曲数をこなしている。	規定よりわずかに多くの曲数をこなしている。	規定通りの曲数をこなしている。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 発表会の評価や内容について、終了時にその都度口頭で伝える。						
【教科書】 『あなたも弾ける やさしい童謡唱歌集』 木村鈴代（編著） 同文書院 『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木（編著） 萌文書林 / その他、適時資料配布						
【参考書・参考資料等】 『こどものうた200』『続・こどものうた200』 小林美実（編者） チャイルド本社						
【関連科目】 「音楽表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ」 「保育内容（音楽表現）」						
【受講心得】 ピアノ演奏は毎日の積み重ねが重要なため、予習復習を心がける。習熟度により、学習進行や順番が変わることもある。						
【備考】 保育士課程選択必修						
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）			
1	夏休み課題曲発表会 および オリエンテーション	各教員	<学習内容>夏休み期間の課題曲を演奏する。また、本授業の目的や進行等について理解する。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）			
2	ピアノ演奏・弾き歌いの応用①	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
3	ピアノ演奏・弾き歌いの応用②	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
4	ピアノ演奏・弾き歌いの応用③	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
5	ピアノ演奏・弾き歌いの応用④	各教員	<学習内容>保育・教育現場を想定した歌い方や音楽的なピアノ演奏に取り組む。 <事前学習>決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。（3時間） <事後学習>不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。（3時間）			
6	弾き歌い発表会	各教員	<学習内容>任意の1曲をクラス全体の前で弾き歌いし、集団の場におけるピアノ演奏と歌唱の経験を積む。 <事前学習>発表会に向けて、練習に励む。（3時間） <事後学習>発表会での振り返りを基に、復習する。（3時間）			

7	歌唱伴奏の取り組み①	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
8	歌唱伴奏の取り組み②	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
9	歌唱伴奏の取り組み③	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱場面におけるピアノ伴奏の練習を積む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
10	歌唱伴奏の取り組み④ —歌唱伴奏発表会—	各教員	<p><学習内容> 集団歌唱の場面でピアノ伴奏を披露する。</p> <p><事前学習> 発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習> 発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
11	ピアノ楽曲および 実習課題曲の取り組み①	各教員	<p><学習内容> 取り組みたいピアノ楽曲を選定し、譜読みをする。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
12	ピアノ楽曲および 実習課題曲の取り組み②	各教員	<p><学習内容> ピアノ楽曲において音楽的な演奏技法等を学ぶ。また実習課題曲にも取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
13	ピアノ楽曲および 実習課題曲の取り組み③	各教員	<p><学習内容> ピアノ楽曲において音楽的な演奏技法等を学ぶ。また実習課題曲にも取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
14	ピアノ楽曲および 実習課題曲の取り組み④	各教員	<p><学習内容> ピアノ楽曲において音楽的な演奏技法等を学ぶ。また実習課題曲にも取り組む。</p> <p><事前学習> 決められた課題曲を合格できるよう、予習をしっかり行って授業に臨む。(3時間)</p> <p><事後学習> 不合格になった曲の復習をし、次回の授業での合格を目指す。合格した場合もいつでも弾けるように継続して練習する。(3時間)</p>
15	ピアノ楽曲および 実習課題曲の取り組み⑤	各教員	<p><学習内容> ピアノ楽曲発表会の総仕上げを行う。また実習課題曲に取り組む。</p> <p><事前学習> 発表会に向けて、練習に励む。(3時間)</p> <p><事後学習> 発表会での振り返りを基に、復習する。(3時間)</p>
16	ピアノ楽曲の発表会		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
教育実習 I	青沼 典子	1	後期	実習	選択	2
	担当形態	ナンバリング			CE1226	
	担当教員	青沼典子、谷川裕子				
【キーワード】	【概要】					
1 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における子どもの生活と遊びの様子を観察し、子どもの発達理解や心情理解に繋がる関りを重ねる。 ・保育参加とメンター教諭のサポートを通して、幼稚園教諭の基本的な仕事の内容を体験的に学び、人的環境として子どもに関り配慮し、その役割の重要性を理解する。 ・幼稚園教諭としての資質や教育的スキル、専門性の獲得の必要性を自覚し、今後の学習と以後の実習に向けて自己の学びの課題を得ることを目指す。 ・現場で実習するにあたり、教師あるいは社会人として求められる礼儀や挨拶、身なり、立ち振る舞い、言葉遣いがあることを学ぶ。 					
2 幼稚園						
3 幼稚園教諭						
4 観察実習						
5 子ども理解						
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な幼稚園生活と遊びの概要を理解し、子どもの発達や心情をもとに子どもと関ることができる。 2. 実習体験と日誌記述による日々の振り返りから、教師に求められる専門性獲得の必要性を自覚するとともに、実習以降の自己の学習課題を明確にすることができる。 3. 幼稚園教諭の仕事内容を把握し、人的環境として子どもへの教育的働きかけと配慮ができる。 						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	実習園の評価		実習に対する取り組み		合計	
評価割合 (%)	80%		20%		100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【評価内容】 (ルーブリック)						
評価項目	4	3	2	1		
実習園の評価	非常に優れている	優れている	適切である	努力を要する		
実習日誌	保育に対する考察が十分なされている	指摘を受けた個所を改善しようと努力している	毎日、丁寧に読みやすく書いている	毎日提出している		

態度・行動	自分自身の課題を見つけ積極的に実習をする	決められた課題に取り組み実習をする	教員の指導を受けて自ら改善し実習をする	教員から多くの指導を受けて実習をする		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
実習園の指示に従う。						
【教科書】						
『実習の手引き』（純真短期大学こども学科） 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）						
【参考書・参考資料等】						
『実習日誌の書き方』 開仁志編著（一藝社） 『遊びの指導』（財）幼少年教育研究所編著（同文書院）						
【関連科目】						
教育実習指導 教育実習Ⅱ						
【受講心得】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業倫理を守り、子どもの人権を尊重することを心がける。 ・ 実習現場である幼稚園の教育方針を理解し、実習生といえどもその園の「一教員」として子どもの前に立つ自覚を持つ。 ・ 謙虚な態度をもって実習園のメンター教員の指導・助言を受け、学びを得る努力をする。 						
【備考】						
幼稚園教諭免許必修						
【学習項目】						
<p>※2週間の実習期間の中で、実習園のスケジュールや保育内容等に合わせて以下の実習内容を履修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習園の概要と1日の園生活の流れを把握する。 ② 園生活における子どもの基本的な生活習慣を知る。 ③ 子どもの遊びや保育内容の実際を保育参加を通して体験する。 ④ 遊びや園生活の中で子どもとかわりコミュニケーションを図る。 ⑤ 個々の子どもの心情理解に努め、信頼関係を構築する。 ⑥ 保育室の清掃や環境整備に取り組み、その教育的意図を理解する。 ⑦ 実習日誌の記述を通して記録の取り方や保育を観る視点を学ぶ。 ⑧ 記録された事実から気づきや考察をまとめ、文章化する。 ⑨ 絵本の読み聞かせや手遊びなど、子ども集団を対象にした部分的な保育に取り組む。 ⑩ 実習における保育実践について振り返り、反省会等でメンター教員からの指導、助言、評価を受ける。 <p>【事前学習】 実習園との事前打ち合わせ・オリエンテーションで提示された事前準備や課題、練習をする。（絵本の選定、手遊び・歌遊びの練習、ピアノの練習など） 3時間</p> <p>【事後学習】 実習中毎日、日誌の記入とともに、実習の振り返り、責任保育のブラッシュアップする。1時間</p>						

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション理論	春田 智明	1	後期	講義	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	CE1101	
	担当教員	春田智明				
【キーワード】	【概要】					
1 コミュニケーション	子どもや人々の生活に、潤いと楽しさをとおした心の元気づくりに生かすレクリエーション理論を学び、レクリエーションを効果的に活用することで人々を支援する方法等を学ぶ。					
2 ホスピタリティー						
3 健康づくり						
4 遊び						
5 楽しさ						
【到達目標】						
1. レクリエーション・インストラクターの主旨や役割、レクリエーション支援について理解できる。						
2. レクリエーション活動の楽しさを感じる仕組みについて理解できる。						
3. 現場に応じたレクリエーション支援のプログラムについて理解できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。						
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。						
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	定期試験		受講態度等			合計
評価割合 (%)	80		20			100
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
試験終了後、模範解答とコメントを返答する。						
【教科書】						
『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会						
【参考書・参考資料等】						
適宜資料配布						
【関連科目】						
「レクリエーション実技」「レクリエーション実習」「子どもと表現」						

【受講心得】		
本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。		
【備考】		
レクリエーション・インストラクター課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1		レクリエーションの主旨と、 支援の目的や方法
2		レクリエーション・インストラクターの 役割
3		楽しさを通した心の元気づくりと 対象者の心の元気
4		心の元気と地域のさずな
5		ライフステージとレクリエーション
6		子どもと遊び
7		子どもの生活環境としての レクリエーション
8		子どもの発達とレクリエーションの活用

9	コミュニケーションと信頼関係づくり		<学習内容>信頼関係を築く <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
10	良好な集団づくり		<学習内容>信頼関係を築く <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
11	自主的、主体的に楽しむ力を育む レクリエーション活動		<学習内容>内発的な動機付け <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
12	レクリエーション支援の実施と リスクマネジメント①		<学習内容>内発的な動機付け <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
13	レクリエーション支援の実施と リスクマネジメント②		<学習内容>アイスブレイキング <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
14	レクリエーション支援の プログラムの立案①		<学習内容>アイスブレイキング <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
15	レクリエーション支援のプログラムの立案 ②		<学習内容>対象者に応じたプログラム <事前学習>テキストに目を通しておくこと（1時間） <事後学習> 生活の場での実践練習（各々の時間）
16	定期試験		

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
レクリエーション実習	春田 智明	1・2	通年	実習	選択	1
	担当形態	複数教員	ナンバリング		CE1102	
	担当教員	春田智明・豊辻晴香				

【キーワード】	【概要】
----------------	-------------

1	レクリエーション支援	これまでに習得した知識もとに、レクリエーションの現場実習を通して具体的な実践・応用方法を学びながら、心の元気づくりを支援できるレクリエーション・インストラクターを目指す。なお、回数と時間数が定められた2種類のレクリエーション実習の両方に取り組み必要がある。
2	現場実習	
3	レクリエーション事業	
4	ニーズ	
5	心の元気づくり	

【到達目標】

1. 活動現場で実際にレクリエーション支援を行うことで、これまでの学習成果を実践力として定着することができる。
2. 対象者の主体性や協調性を引き出しつつ、レクリエーション支援の準備、展開、評価することができる。
3. さまざまな立場でレクリエーション支援にかかわることで、ニーズや活用法を理解することができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
-------------------	--

1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】	
-------------------	--

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。

【関心・意欲・態度】	
-------------------	--

1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。

【成績評価の方法】

成績指標	受講態度	実践力	レポート	合計
評価割合 (%)	20	50	30	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

【評価内容】 (ルーブリック)

評価項目	4	3	2	1		
参加教・時間	2回以上スタッフ実習と、複数回の事業参加実習に参加している。	1回のスタッフ実習と、複数回の事業参加実習に参加している。	規定通りの回数を、規定以上の時間数、実習に参加している。	規定通りの回数および時間数の実習に参加している。		
実践力 (スタッフ実習)	積極的に他者とかかわりながら全体に目を配り、活動を運営できる。	他者とかかわり、積極的な支援に取り組んでいる。	他者とかかわりつつ、活動に参加している。	自分なりに活動に参加している。		
レポート (書式)	全ての項目が揃っている。	1項目欠けている。	2項目欠けている。	3項目以上欠けている。		
レポート (考察)	支援や対象者の様子を十分に記録し、それに対する考えを述べ、自己省察や今後の課題を見出している。	支援や対象者の様子を記録し、それに対する考えや反省点を述べている。	支援や対象者の様子を記録し、その感想を述べている。	出来事を記録している。		

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	
取り組み姿勢やレポートの内容等について、口頭またはコメントで伝える。	
【教科書】	
『楽しさをおとした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』 日本レクリエーション協会	
【参考書・参考資料等】	
適宜資料配布・紹介する。	
【関連科目】	
「レクリエーション理論」「レクリエーション実技」「子どもと表現」	
【受講心得】	
レクリエーション活動について、日頃より関心をもち、情報収集に努めること。 本学の学生としてふさわしい受講姿勢にて。	
【備考】	
レクリエーション・インストラクター資格課程必修	
【学習項目】	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
<学習内容>	
当授業は、下記の2種類のレクリエーション実習に対し、それぞれの規定回数および時間数、取り組む必要がある。また、スタッフ参加実習では実習後の「課題レポート」を作成・提出しなければならない。	
①スタッフ参加実習（1回以上／総計6時間以上）	
レクリエーション支援に関する実習に「運営スタッフ」としてかわり、プログラムの計画から実施、評価まで一連の流れを経験することで実践力を身に付ける。当実習は、終了後に必ず課題レポートを作成し提出する。	
②事業参加実習（2回以上／総計3時間以上）	
レクリエーション支援を行う現場に「参加者」としてかわることで、地域において実施されているレクリエーション活動のニーズを理解し、技術や活動法の知識を深める。	
<事前学習> それぞれの実習内容に関して事前に調べ学習をしておくこと。（1.0時間）	
<事後学習> 授業で習得したことを日常でチャレンジしてみること。（1.0時間）	
スタッフ参加実習後は、既定のレポートを作成・提出すること。（1.5時間）	